

羽田空港のこれから

～ご質問についてお答えします～

皆様のご意見をお聞かせください

羽田空港の国際線の増便のための方策と
取組みについて



羽田空港のこれから

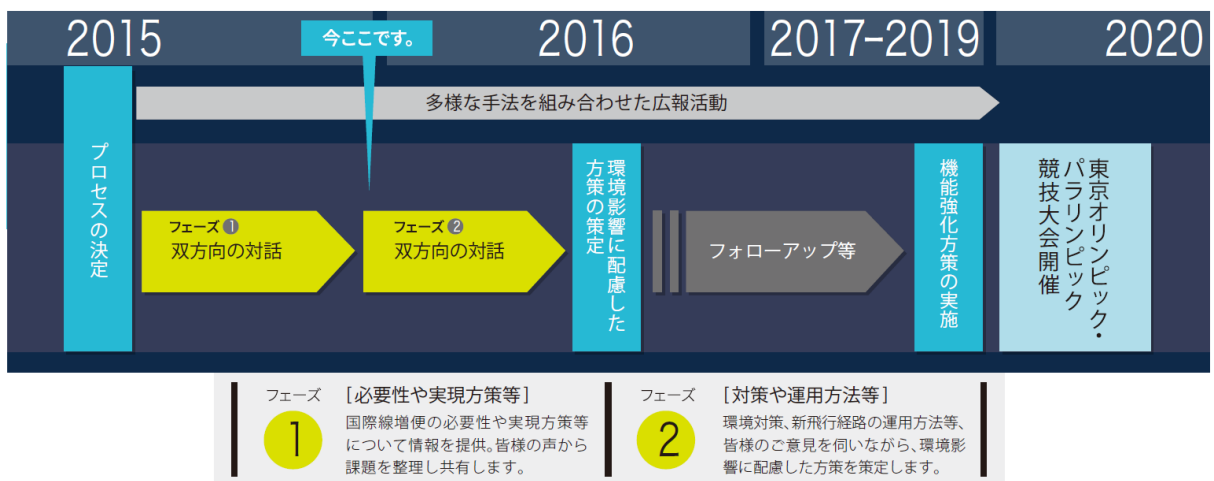
検索



国土交通省 航空局

「羽田空港のこれから」について、 引き続き皆様のご意見をお聞かせください。

- 国土交通省は、日本の豊かな暮らしを将来の世代に引き継ぐため、羽田空港の国際線を増便し、世界との結びつきをさらに深めていく必要があると考えています。
- その具体化に向けた検討を進めるに当たっては、その必要性や実現方策について、できる限り多くの方々に知っていただきたいと考えており、このための双方向の対話を2つのフェーズに分けて進めています。
- フェーズ1では、平成27年7月から9月まで開催された説明会（オープンハウス型）のほか、ホームページ、ニュースレター等を通じてその必要性や実現方策について情報提供を行い、多様なご意見を伺いました。また、ご意見の内容についても、幅広く共有させていただきました。
- フェーズ2では、フェーズ1で明らかになった課題について、更なる情報や考えられる環境・安全上の方策、運用の工夫等の方向性について情報提供させていただき、議論を深めていきます。
- 国土交通省では、このような取組みを通じ、皆様のご意見を伺った上で、平成28年夏までに環境影響に配慮した方策を策定していくこととしています。
- 「羽田空港のこれから」について、提案された方策へのご意見やその他のアイデア、検討する上で重視すべきこと等について皆様のご意見をお聞かせください。

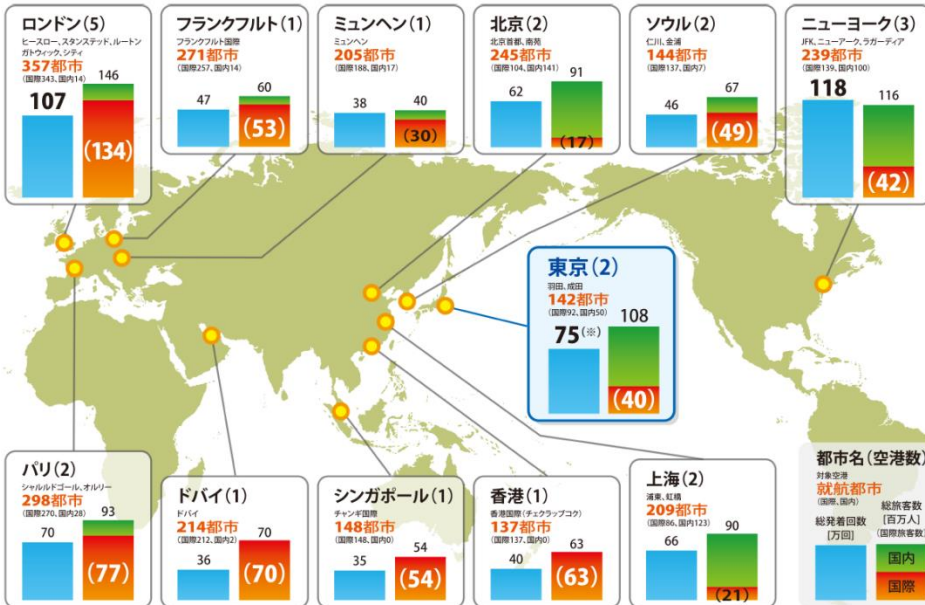


日本の経済・社会を維持・発展させていくためには、 諸外国との結びつきを深めていくことが課題です。

昨今のグローバル化した世界において、航空は私たちの暮らしには欠かせない存在となっています。人口減少や少子高齢化が進む中、子や孫の代まで日本の経済・社会を維持・発展させていくためには、今後より一層、諸外国との結びつきを深めていくことが課題となっています。



世界の主要都市の空港と比較すると、首都圏の玄関口である羽田空港・成田空港を合わせても国際線の就航先が少ないのが現状です。また、アジアにおいても香港、シンガポール、ソウルよりも国際線の利用客数は下回っています。

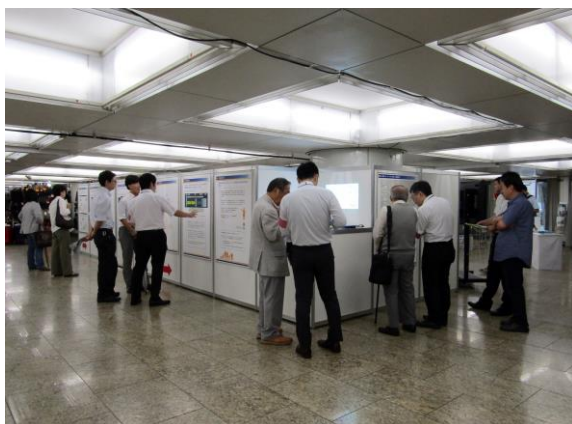


(出典) 発着回数、旅客数: ACI Annual World Airport Traffic Report(Annual WATR)2014
就航都市数: 2014年8月時点で、定期旅客便の東京発着回数は直行便が就航している都市数
※平成27年度時点の空港処理能力

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会やその先の日本の成長を見据え、成田空港とともに羽田空港のあり方について考えていく必要があります。

フェーズ1において、これまで多くのご意見をいただきました。

- フェーズ1では、平成27年7月から9月まで開催された説明会（オープンハウス型）のほか、ホームページ、ニュースレター等を通じてその必要性や実現方策について情報提供を行い、多様なご意見を伺いました。また、ご意見の内容についても、幅広く共有させていただきました。



説明会（フェーズ1）の様子（新宿会場）



フェーズ1の意見要旨
(平成27年11月17日公表)

フェーズ2においても、引き続き検討を進めていきます。

- この説明会（オープンハウス型）では、更なる情報や考えられる環境・安全上の方策、運用の工夫等の方向性について情報提供を行い、方策についてのご意見やその他のアイデア、検討する上で重視すべきこと等について皆様のご意見を伺っていきます。

皆様からご意見を伺った上で、平成28年夏までに、
環境影響に配慮した方策を決定します。

- ◆ 会場内では、担当者がご意見をお伺いします。
- ◆ コメントカードでご意見をお寄せいただくこともできます。
(コメントカードを後日郵送いただくことも出来ます。)

また、国土交通省ホームページに皆様のご意見をお伺いするための窓口を設置しています。

URL <http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/index.html>.



羽田空港のこれから

検索



課題に対応するための方策を考えていきます。

- 国際競争力の強化、訪日外国人への対応、利便性等の観点から、羽田空港の国際線の増便の必要性については、多くの方々に共通する関心事項であった一方で、様々なご心配の声や対策を求める声もいただきました。

騒音の想定値をきめ細かく示してほしい。

新飛行経路の運航便数を減らしてほしい。

落下物対策を強化すべきではないか。



飛行高度の変更を検討してほしい。

新飛行経路の運用開始時間を遅らせてほしい。

影響が大きい地域には防音工事を実施すべき。

更なる安全対策を実施すべきではないか。

- 提案に対する様々な不安や懸念の声に対し、どのような配慮や工夫、対策ができるか、その方向性や課題をお示しつつ、議論を深めていくことが求められています。



**私たちの将来に向けて、
今後の国際線の需要に対応しつつ、
環境影響を最大限軽減し、安全を確保するため、
どのような配慮や工夫、対策が考えられるでしょうか？**

- ◆ 会場内では、担当者がご意見をお伺いします。
- ◆ コメントカードでご意見をお寄せいただくこともできます。
(コメントカードを後日郵送いただくことも出来ます。)

また、国土交通省ホームページに皆様のご意見をお伺いするための窓口を設置しています。

URL <http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/index.html>.



羽田空港のこれから

検索



目次

1. 羽田空港のいま

- 航空と私たちの暮らしは、どのように関わっているのでしょうか。 P2
- 羽田空港の役割について教えてください。 P3
- 羽田空港の現状について教えてください。 P6

2. 羽田空港の国際線増便の必要性

- なぜ羽田空港の国際線を増便する必要があるのですか。 P10
- 都市の国際競争力の強化と、どう関連するのでしょうか。 P16
- 羽田空港の国際線増便は首都圏以外の地方にも良いことなのですか。 P17
- 首都圏空港以外の空港も国際線を増便する必要があるのではないのでしょうか。 P19
- 羽田空港の国際線増便は空港周辺地域にも良い影響はありますか。 P20

3. 羽田空港国際線増便の実現方策

- 現在、滑走路はどのように使われているのですか。 P22
- 今回の提案内容について教えてください。 P25
- 現在想定されている飛行経路を教えてください。 P37
- 将来的に、より環境への影響が少なくなるよう飛行経路を見直すことはできないのですか。 P42

4. 新飛行経路による影響

- どのように音は聞こえるのでしょうか。 P44
- 航空機の飛行に伴う様々な影響が心配です。 P48

5. 環境に対する影響を軽減する方策

- 騒音をできるだけ小さくするため、どのような方策を考えていますか。 P52
- 音の状況に応じて防音工事はしてもらえるのですか。 P55

6. 安全性に関する方策

- 航空事故について教えてください。 P58
- 人口密集地区上空を飛行することについて安全性に問題はないのでしょうか。 P60
- 万一事故があった場合の補償はどのようになっているのでしょうか。 P68
- テロやハイジャックへの対策は大丈夫でしょうか。 P69
- 航空機からの落下物について教えてください。 P70

7. その他

- 国際線増便後の空港の姿はどのようなものになりますか。 P74
- わかりやすい情報提供について、どのような対策が考えられますか。 P76
- 今後の検討や対話は、どのように進むのでしょうか。 P77

1

羽田空港のいま



質問 航空と私たちの暮らしは、どのように関わっているのでしょうか。

- 昨今のグローバル化した世界において、航空は私たちの暮らしには欠かせない存在となっています。

航空は、国内外でのビジネス活動、観光客の往来、大切な友人との交流、家族とのつながりなどを陰ながら支えています。その中で、新たな人の出会いや体験を生み出しています。



日常生活においても、食卓に並ぶ野菜や魚介、またスマートフォンなどの精密機器など、航空により運ばれているものが生活にたくさん溶け込んでいます。



① 航空とビジネス

海の向こうのビジネスパートナーに、直接、気軽に会えるようになり、新たな国内投資や海外展開のチャンスがどんどん広がっています。



② 航空と観光

写真でしか見れなかったような遠い場所にも、今では気軽に行けるようになりました。また、海外からも多くの外国人が日本を訪れています。このような異文化の体験や相互理解の深化を通じ、新たな文化や地域経済の循環が生まれつつあります。



③ 航空と精密機械

スマートフォンや医療機器といったハイテク商品・部品の多くが飛行機で運ばれており、私たちの便利な生活や国内での生産活動、雇を支えています。



④ 航空と食品

首都圏のスーパーや食卓には、アスパラガス、トマト、オクラ、インゲン、バナナ、イチゴ、マグロなど、国内外から航空輸送により運ばれている生鮮食品がたくさん並んでいます。また、日本の希少価値の高い果物や農産品を海外に輸出し、新たな販路を切り拓きも活発になっています。

質問 羽田空港の役割について教えてください。

- 日本の経済・社会を支えてきた羽田空港。地方と首都圏、そして世界をつなぐ大切な役割を果たしています。
- 人口減少時代を迎えた日本で、これからも日本の成長を支える空港であるためには、羽田空港をさらに世界に開くことが必要と考えています。

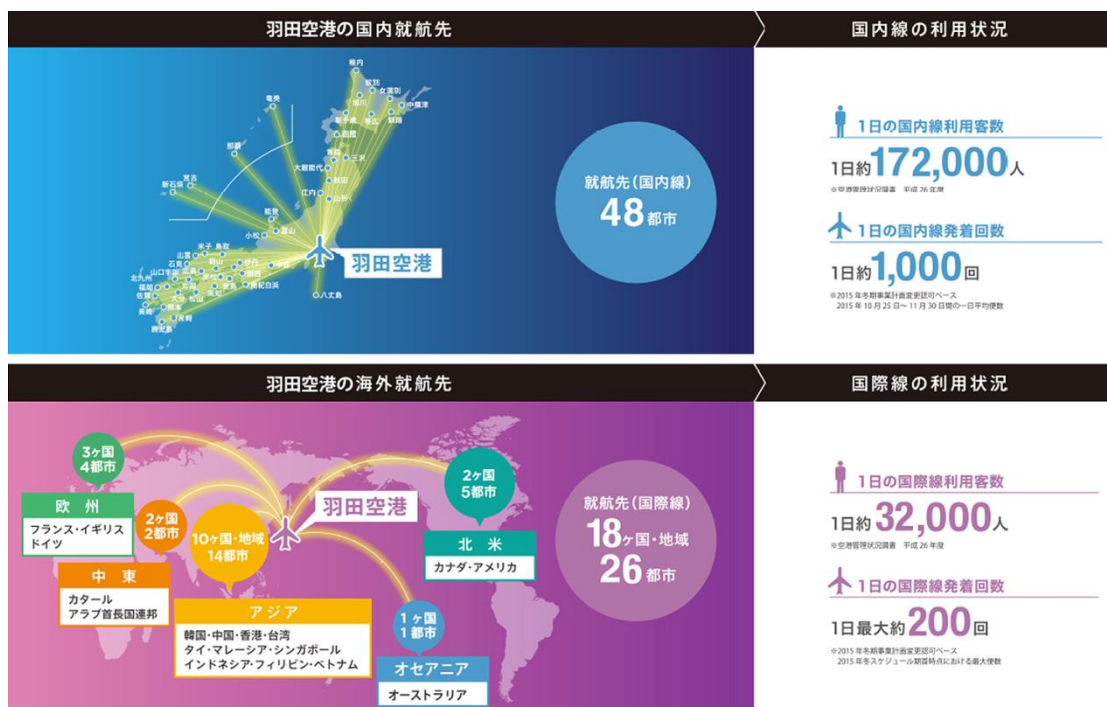
地方と首都圏、そして世界をつなぐ大切な役割を果たしています。



羽田空港は4本の滑走路と3カ所の旅客ターミナル（国内2、国際1）があります。

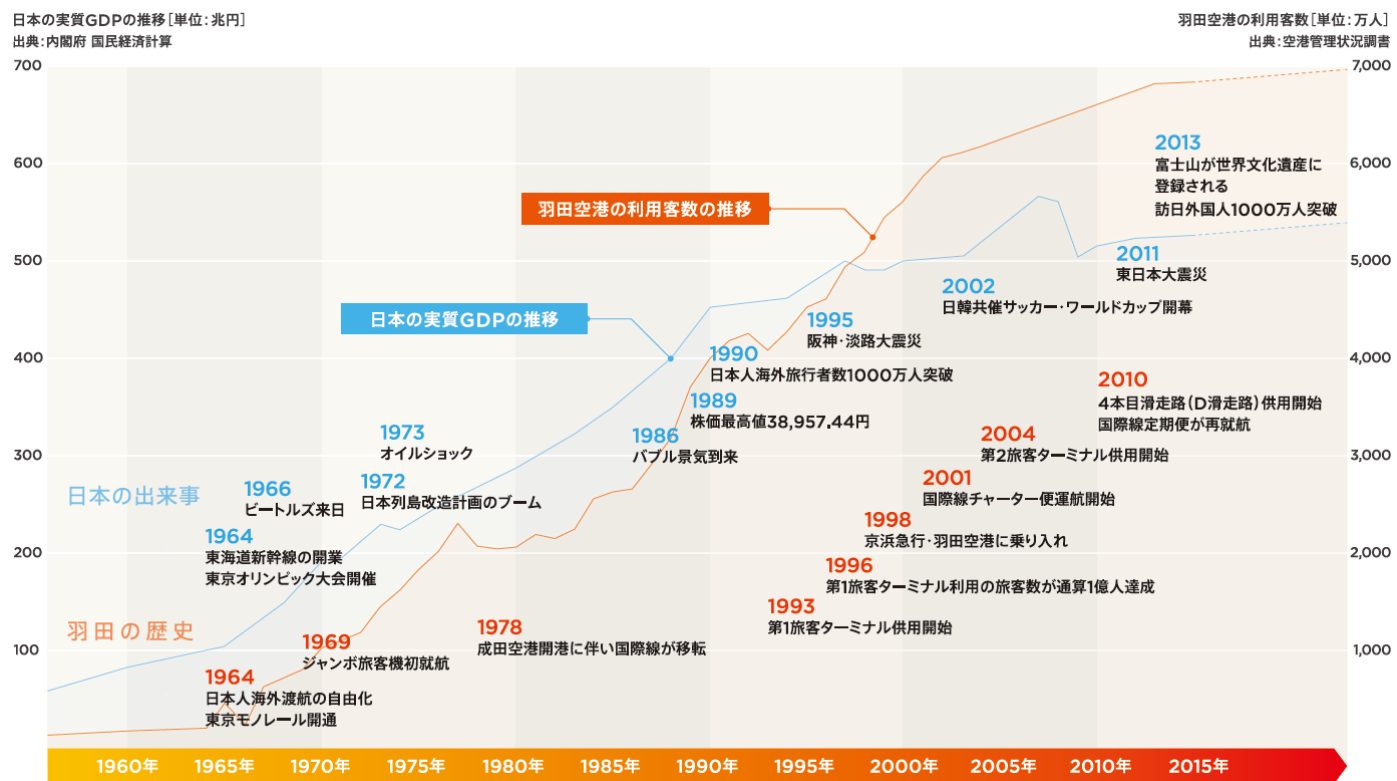
また、都心からの距離は、わずか15kmとアクセスも便利です。

国内外に豊富な路線を有する羽田空港。首都圏と世界をつなぐだけでなく、羽田空港を通じて地方と世界もつないでいます。



羽田空港は日本の成長、地域の発展を支えてきました。

旅客ターミナルや滑走路の整備により、日本の経済・社会を支えてきた羽田空港。
日本の成長、地域の発展に併せて、羽田空港も進化してきました。



1964年 (旧C滑走路完成)



1971年 (旧B滑走路延伸)



1988年 (現A滑走路完成)



1997年 (現C滑走路完成)



2000年 (現B滑走路完成)



2010年 (D滑走路完成)

2010年（平成22年）に4本目の滑走路の整備により増便が可能となり、国際定期便が再び就航した羽田空港。日本の成長、地域の発展に、より大事な役割を果たすようになりました。

「都心から近く」、「24時間オープンしている」という強みを生かし、ビジネスや観光をよりしやすい環境にしています。



さらに、外国企業の拠点や海外ビジネスを呼びこんでいきます。



外資系企業のアジア・オセアニア地域統括拠点数

シンガポール	中国	香港	日本	オーストラリア	韓国	インド	台湾	その他
321	277	222	114	68	48	43	42	296

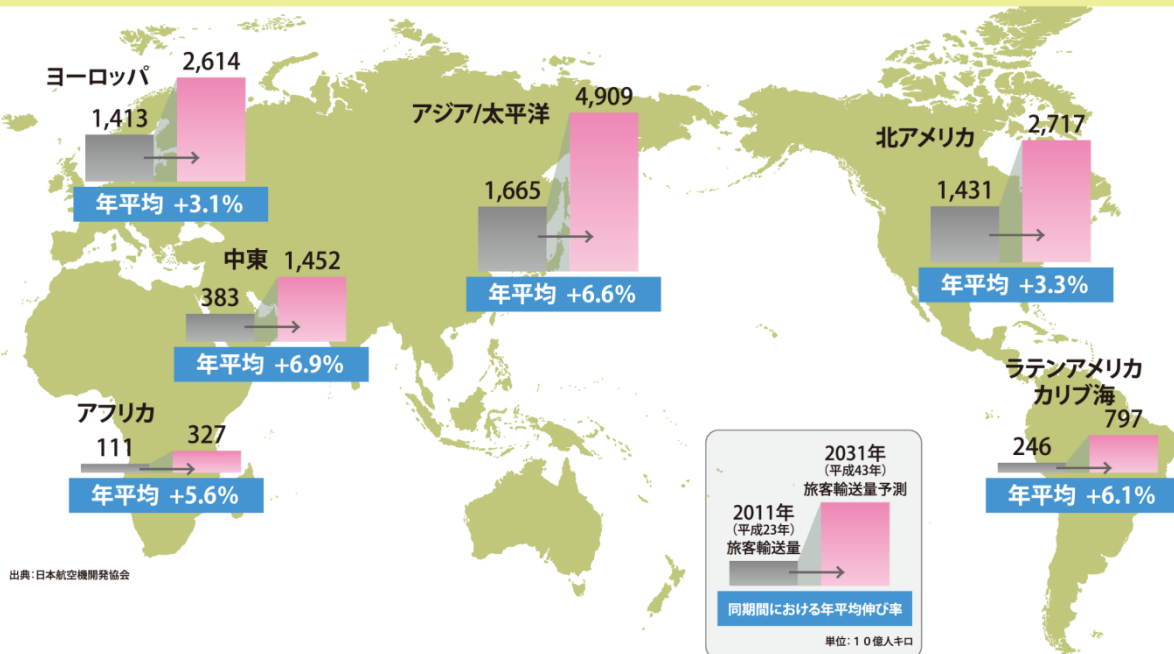
※ 調査対象は、日本に進出しており、かつ、外国投資家が株式又は持分の3分の1超を所有している等の条件を満たす企業。
 出典：第47回 外資系企業の動向（第47回 平成25年外資系企業動向調査（平成24年度実績））」を元に国土交通省作成

質問 羽田空港の現状について教えてください。

- 羽田空港は、深夜・早朝の時間帯を除き、現在、フル稼働の状況です。
- 人口減少時代を迎えた日本で、これからも日本の成長を支える空港であるためには、羽田空港をさらに世界に開くことが必要と考えています。

世界的に見てもアジアの航空需要が大幅に増加するなかで、将来想定される国際線の需要増に対応するためにも、成田空港とともに羽田空港のさらなる国際化のための方策を早急に考える必要があります。

航空輸送量の大幅な増加（国際・国内計）



羽田空港は、深夜・早朝の時間帯を除いて現在フル稼働しており、国際線の需要が集中する時間帯において、これ以上国際線を増やすことができません。



多くの航空機で混雑する羽田空港

日本の経済・社会にとって必要不可欠な羽田空港。
これからも日本の成長を支えるため、さらに世界に開くことが必要です。

人口減少社会を迎えた日本で、私たちがこれからも豊かな生活を実現していくためには、羽田空港の国際線の増便が欠かせません。



首都圏の国際競争力を強化

都心からのアクセスも便利な羽田空港。アジアの都市との競争を勝ち抜き、世界中からヒト・モノ・カネを東京に呼び込みます。



より多くの外国人観光客をお迎え

増加する外国人旅行者をさらに呼び込み、買い物や宿泊してもらうことで日本全国の経済を活性化させます。



地方を元気に

羽田空港の豊富な国内線と国際線を結ぶことで、日本各地と世界の交流を活性化させ、世界の成長の果実を地方にもお届けします。



東京オリンピック・パラリンピックを円滑に開催

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会で、世界各国から来日する大会関係者、選手、観客などをお出迎えし、大会を成功させることが必要です。

これからも、日本の成長を支える空港です

2

羽田空港の国際線増便の 必要性



羽田空港の国際線の増便はなぜ必要なのでしょうか？

質問 なぜ羽田空港の国際線を増便する必要があるのですか。

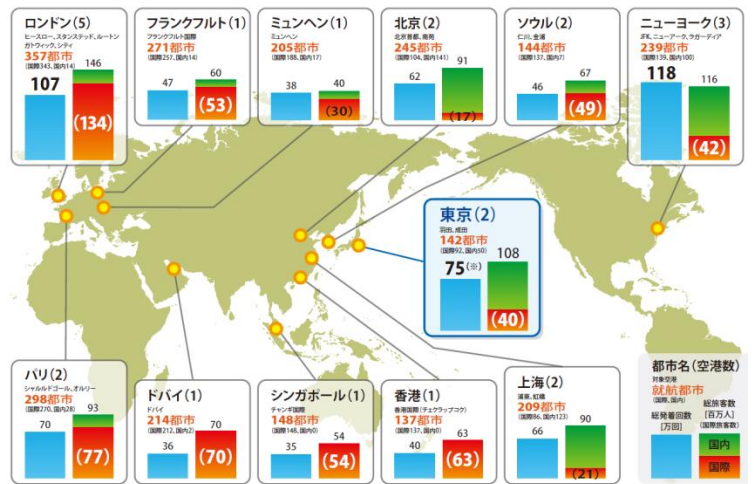
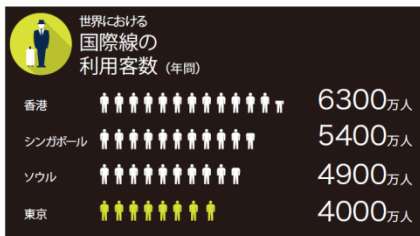
● 人口減少や少子高齢化が進む中、日本の経済社会を維持・発展させていくためには、今後より一層諸外国との結びつきを深めていくことが重要です。

○ 人口減少や少子高齢化が進む中、日本の経済社会を維持・発展させていくためには、今後より一層諸外国との結びつきを深めていくことが重要です。



アジアなど世界と共に発展する アジアの成長・活動拠点に ビジネスの海外展開 質の高い投資の呼び込み	豊かな生活を実現する 知恵を取り入れ、育む 異文化理解を深める 次世代を担う若者を育てる
---	--

○ 世界の主要都市の空港と比較すると、羽田空港・成田空港を合わせても国際線の就航先が少ないのが現状です。また、香港、シンガポール、ソウルなどアジアの主要諸国よりも国際線の就航先数・利用客数ともに下回っています。



○ 今後、世界的な航空需要は、アジア地域を中心に更に伸びると言われています。このような中で、羽田空港は、深夜・早朝の時間帯を除き、現在フル稼働しています。

○ また、時差の影響により国際線の需要が一定の時間帯に集中する傾向があります。

○ このような時間帯には、羽田空港のみならず、成田空港も既にフル稼働の状態にあり、成田空港と羽田空港の両方について、更なる国際線の増便のための方策を考えていく必要があります。



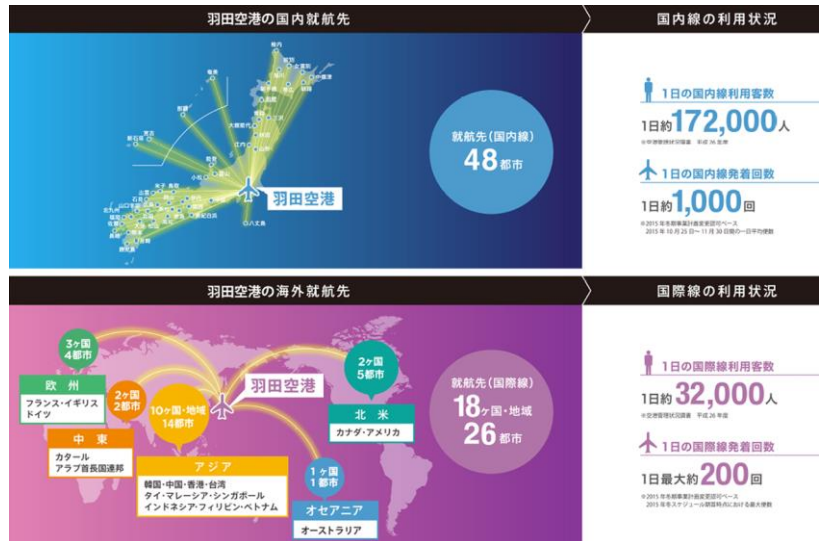
多くの航空機で混雑する羽田空港

羽田空港の国際線の増便はなぜ必要なのでしょうか？

- 日本の経済・社会にとって必要不可欠な羽田空港。
豊富な国内線との接続を通じて「地方と世界をつなぐ」という役割、
そして「都心から近く、24時間オープンしている」という強みを生かし、
首都圏や地方の成長・発展により大事な役割を果たしていきます。

○ 旅客ターミナルや滑走路の整備により、日本の経済・社会を支えてきた羽田空港。日本の成長、地域の発展に併せて、羽田空港も進化してきました。

- 国内外に豊富な路線を有する羽田空港は、首都圏と世界だけではなく、地方と世界もつないでいます。



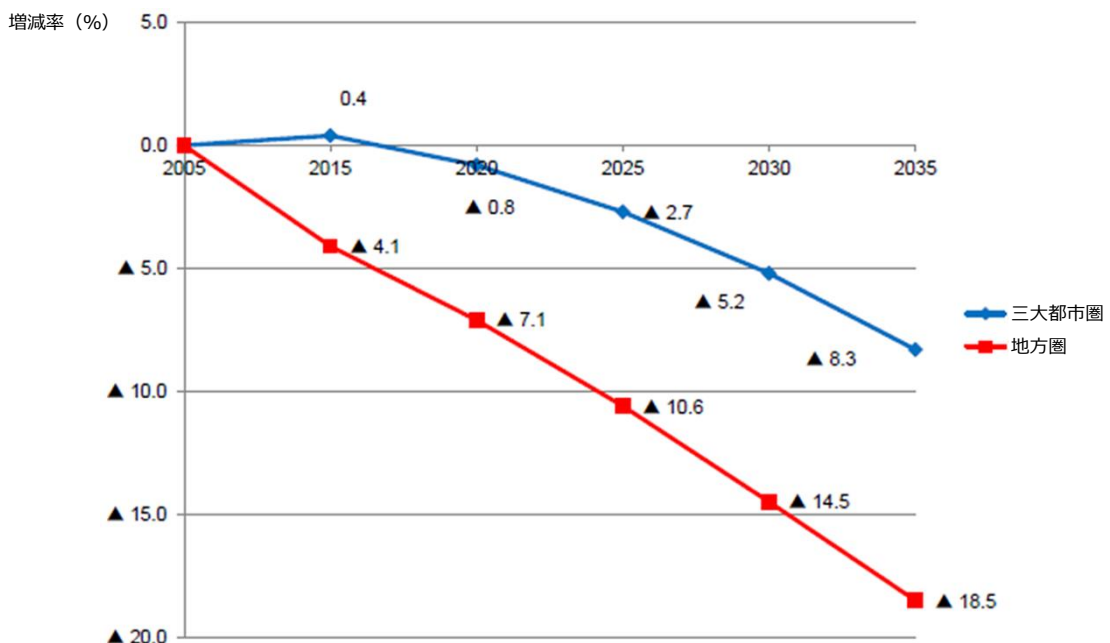
- 「都心から近く」、「24時間オープンしている」という強みを生かし、ビジネスや観光をよりしやすい環境にしています。さらに、外国企業の拠点や海外ビジネスを呼びこんでいきます。



Q1 人口減少していく中で、増便する必要はあるのですか。

- 人口減少社会にどう対応していくかといった視点を持ちながら、羽田空港の国際線増便について更に議論を深めることは、大変重要なことと考えています。
- 国土交通省としては、人口減少時代だからこそ、羽田空港を軸とした航空ネットワークの充実を通じ、海外との結びつきを深めることが大事だと考えています。
- 航空は、私たちの暮らしには欠かせない存在となっており、国内外でのビジネス活動、観光客の往来、大切な友人や家族とのつながりなどを陰ながら支えています。その中で、新たな人の出会いや体験を生み出しています。
- 今後、より一層、航空ネットワークの充実を図り、首都圏と世界との間で人やモノの海外との結びつきを増やし、東京を魅力ある国際都市にすることが、将来の雇用や経済を持続可能なものとし、優れた社会の担い手づくりに貢献すると考えています。
- また、特に地方部では、人口減少、少子高齢化が急速に進んでいます。その傾向が著しい地方部では、都市間の格差が拡大し、海外との直行便を結ぶことができない状況にも直面しています。そのような地方こそ、羽田空港を通じて効率的に世界とつながることを必要としています（ハブ&スポーク）。
- 豊富な国内線との接続を通じ「地方と世界を結ぶ」という重要な役割を担う羽田空港だからこそ、将来のために国際線の増便が必要になると考えています。

三大都市圏と地方圏の人口増減率（推計）

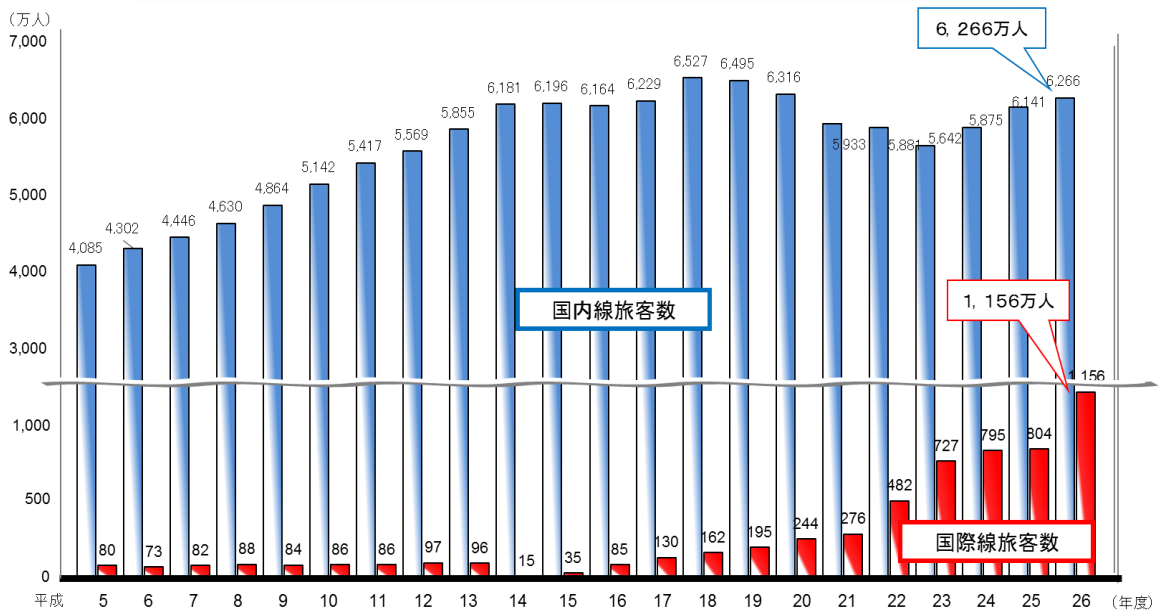


出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所
 「日本の都道府県別将来推計人口(平成19年5月推計)」により国土交通省作成
 三大都市圏：東京圏（埼玉・千葉・東京・神奈川）名古屋圏（岐阜・愛知・三重）関西圏（京都・大阪・兵庫・奈良）
 地方圏：三大都市圏以外

Q2 羽田空港の国内線の便数を減らすことで、国際線を増便すれば良いのではないですか。

- 羽田空港に就航する国内線については、非常に需要が高く、旅客数も伸びています。
- また、地方では、人口減少時代に立ち向かうため、羽田空港を通じ、首都圏や世界との結びつきを維持、強化することが必要となっています。具体的には、便数を維持・増加してほしい、運航を多頻度化し利用者サービスを向上してほしい、などネットワークの更なる充実を望む声が寄せられています。
- 国土交通省としては、羽田空港の国際線増便にあたり、首都圏の国際競争力の強化とともに、羽田空港の国内線で結ばれている地方に対しアジア諸国の成長力を地方のすみずみまで届け、地方を元気にしていくということが大変大切であると考えています。
- これらのことから、国内線の便数を減らすことで、国際線を増便することについては、慎重な検討が必要と考えています。

羽田空港の旅客数の推移



出典：国土交通省 年度別空港管理状況調査

Q3 成田空港をもっと活用できないのですか。

- 人口減少、少子高齢化が進む中、豊かな暮らしを子や孫の代に引き継ぐためには、今後より一層諸外国との結びつきを深めていくことが重要です。そのためには、羽田空港とともに成田空港も活用していく必要があり、両空港で国際線の増便が必要と考えています。
- また、既に、成田空港も国際線のニーズが高い時間帯は発着枠が一杯の状況にあり、増便が難しい状況となっています。
- 羽田空港は、国内線のメイン空港としての機能を持ちつつ、国際線は内陸乗継を含む日本発着需要や高需要・ビジネス路線に対応していきます。一方、成田空港は、国際線のメイン空港であり、内陸乗継を含むグローバル需要、LCC、貨物需要に対応していきます。
- このように羽田空港及び成田空港の特性を最大限活かしながら、首都圏空港としての航空機能を最大化することを目指していきます。



- なお、既に成田空港も国際線のニーズが高い時間帯はフル稼働している状態にあることから、誘導路の整備等による国際線の更なる増便を検討していきます。

<成田空港の2020年に向けた主な処理能力拡大方策>

- ・ 管制機能の高度化WAM（管制機能の高度化に必要な監視装置）の導入
約2万回/年の増便が可能……………2014年度末に導入済
- ・ 高速離脱誘導路の整備
約2万回/年の増便が可能……………整備中

Q4 周辺のその他の空港をもっと活用すればいいのではないですか。

- 茨城空港、静岡空港等の首都圏周辺のその他の空港も重要であり、これらの空港の活用にも取り組んでいきます。
- 他方で、これらの空港については、都心へのアクセスの改善（時間、運賃等）が課題となっており、アクセスに優れた羽田空港の国際線の増便が必要であると考えています。

Q5 羽田空港の国際線増便について、これまでどのような検討が行われてきたのですか。

- 交通政策審議会航空分科会基本政策部会において、羽田・成田両空港の今後のあり方について議論を行い、平成25年9月に両空港の更なる機能強化に向けて、具体的な方策の検討に着手することを決定しました。
- これを受け、同年11月に学者・専門家で構成する首都圏空港機能強化技術検討小委員会を設置し、羽田・成田両空港の機能強化策について技術的な検討を行いました。
- 平成26年7月に、これまでの議論の中間的な取りまとめとして、羽田空港の飛行経路の見直しを含む機能強化策を発表しました。

首都圏空港機能強化技術検討小委員会の中間取りまとめ（概要）

	■ 2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに実現し得る主な方策	■ 2020年東京オリンピック・パラリンピック以降の方策
羽田空港	<ul style="list-style-type: none"> ・滑走路処理能力の再検証 →年間+約1.3万回（約35回/日） ・滑走路運用飛行経路の見直し →年間+約2.3～2.6万回（約63～72回/日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・滑走路の増設
成田空港	<ul style="list-style-type: none"> ・管制機能の高度化 →年間+約2万回（約55回/日） ・高速離脱誘導路の整備 →年間+約2万回（約55回/日） ・夜間飛行制限の緩和 →年間+a回 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存滑走路の延長 ・滑走路の増設
	合計 約82.6万回 （年間+約7.9万回）	注:その他の課題として、両空港をフルに有効活用するための方策、異常発生時における回復性の強化、空港処理能力拡大以外の機能強化方策、羽田空港、成田空港以外のその他の空港の活用等が挙げられている。

質問 都市の国際競争力の強化と、どう関連するのでしょうか。

- 「都心から近く」、「24時間オープンしている」という強みを持つ羽田空港の国際線が増便すると、企業誘致、投資にも追い風となり、国際競争力に大きく寄与すると考えられます。
- また、世界の都市総合カランキング2015において、東京は世界第4位となり、交通・アクセス分野、特に国際線就航都市数、国際線旅客数が弱みとされ、更なる国際競争力強化には羽田空港の国際線増便が欠かせません。



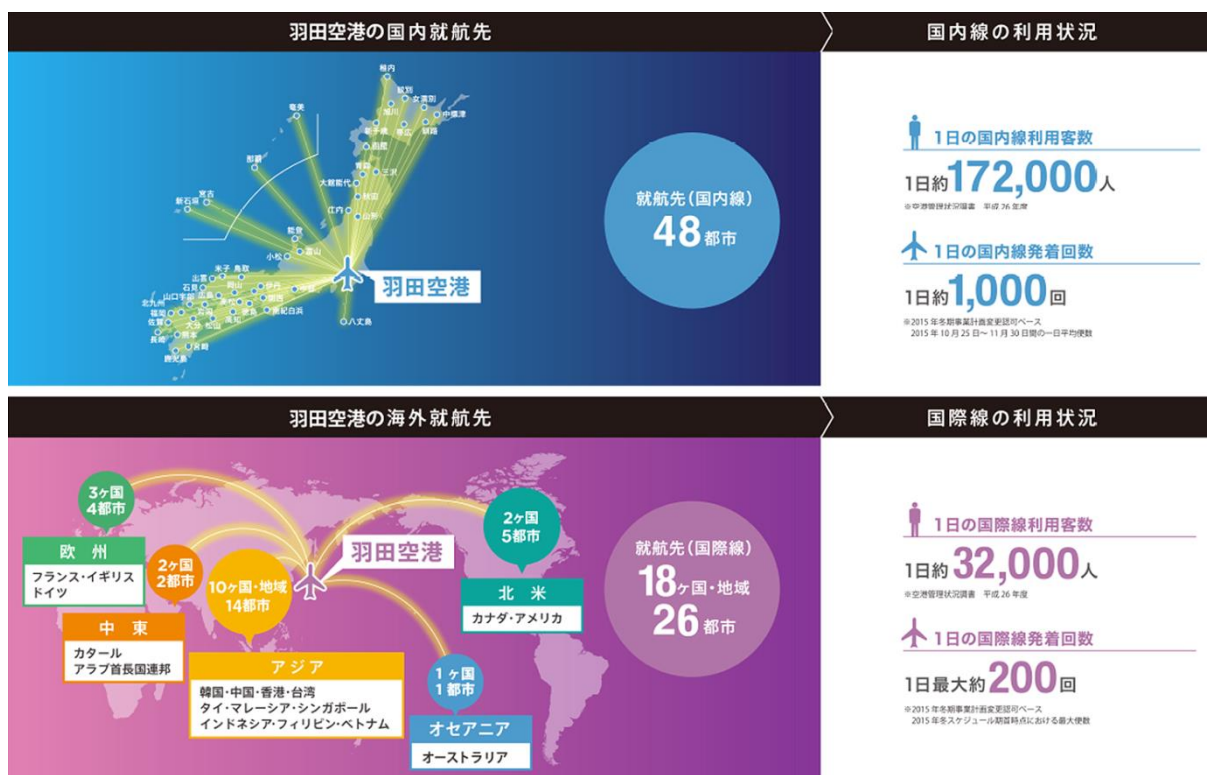
世界の大都市圏における主要空港と都心との距離

都市	空港名	都心からの距離
ロンドン	ヒースロー	24km
	ガトウィック	43km
	スタンステッド	51km
ニューヨーク	J. F. ケネディ	24km
	ニューアーク	25km
	ラガーディア	15km
パリ	シャルル・ド・ゴール	25km
	オルリー	14km
東京	羽田	15km
	成田	66km
ソウル	仁川	50km
	金浦	17km

質問 羽田空港の国際線増便は首都圏以外の地方にも良いことなのですか。

- 羽田空港は、地方と首都圏、そして世界をつなぐ大切な役割を果たしています。
- そのような重要な役割を担う羽田空港だからこそ、将来のために国際線の増便が必要になると考えています。

○ 国内外に豊富な路線を有する羽田空港は、首都圏と世界をつなぐだけでなく、羽田空港を通じて地方と世界もつないでいます。



○ 地方が厳しい人口減少社会を迎えている状況だからこそ、羽田空港を軸としたネットワークを通じ、アジア諸外国等の成長力を地方のすみずみに効率良く届け、また、地方から海外への渡航を便利にしていくことは大切なことと考えています。

○ なお、少し前までは、ビジネスや旅行で地方から海外に行かれる際に、国内の地方空港からソウル（仁川空港）などの近隣国の空港を経由して、海外に行かれる方が増加する傾向がみられていました。

○ 平成26年夏より、羽田空港の国際線ネットワークを大幅に強化したところ、仁川空港の旅客が減り、羽田空港の旅客が増える状況が発生しています。このようなことから、羽田空港の地方と世界を効率的につなぐことの重要性を実感しているところです。

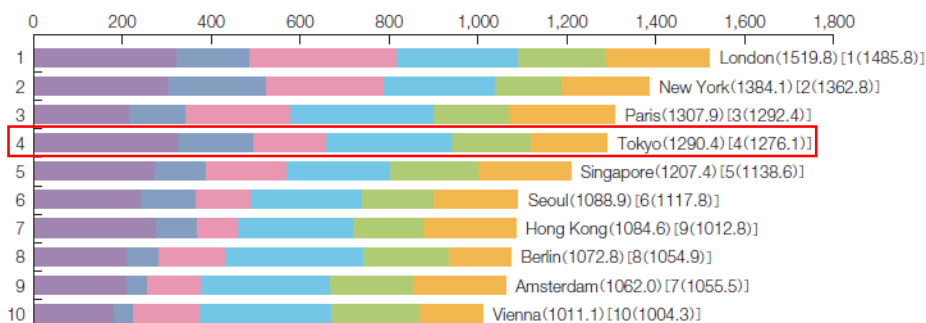
- (一財) 森記念財団 都市戦略研究所「世界の都市総合ランキング2015」では、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける都市の“磁力”こそが「都市の総合力」であるとして、世界の40都市について、「経済」「研究・開発」「文化・交流」「居住」「環境」「交通・アクセス」の6分野から評価しています。
- 東京は、ロンドン、ニューヨーク、パリに次ぐ世界総合第4位とされました。
- 東京は、経済分野、研究・開発分野の面で高い評価を得た一方で、交通・アクセス分野、特に国際線就航都市数、国際線旅客数が弱みとされました^{※)}。
- 更なる競争力や魅力の向上には、この分野の重点的な強化が必要であり、弱みを強みに逆転することで、都市全体の総合力が強化する可能性が示唆されています。

※) 国際線直行便就航都市数は40都市中第25位、国際線旅客数は40都市中第12位

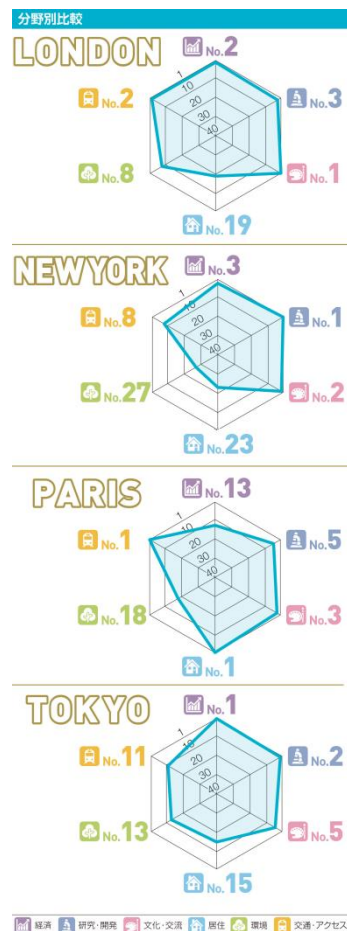
世界の都市総合ランキング対象都市 (40都市)



総合ランキング (トップ10)



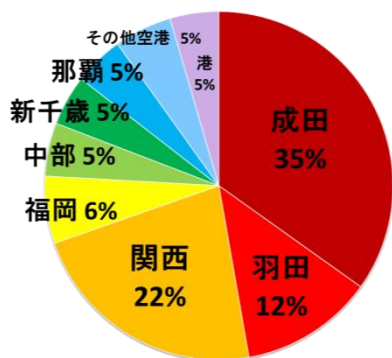
トップ4都市の比較



質問 首都圏空港以外の空港も国際線を増便する必要があるのではないのでしょうか。

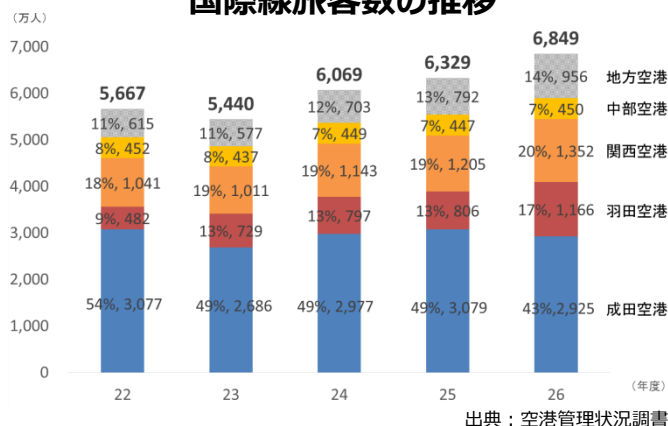
- 訪日外国人の空港利用者数等は、首都圏空港のみならず地方の主要空港でも伸びています。今後も、このような空港も活用しながら、航空ネットワーク全体で効率良く、訪日外国人の増加等に対応してまいります。

平成26年 入国外国人港別割合



出典：法務省 出入国管理統計

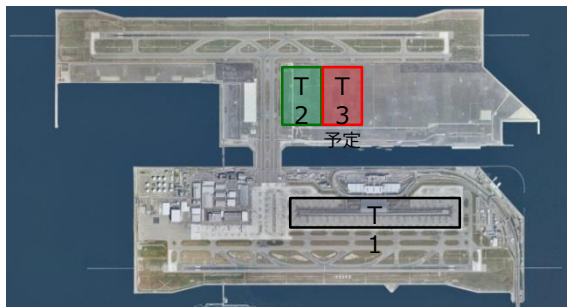
国際線旅客数の推移



出典：空港管理状況調査

関西国際空港

LCC専用ターミナルの整備



第2ターミナル (T2)

- ・平成24年10月28日供用開始
- ・国際線・国内線共用
(※T3供用開始後は国内線専用)

第3ターミナル (T2)

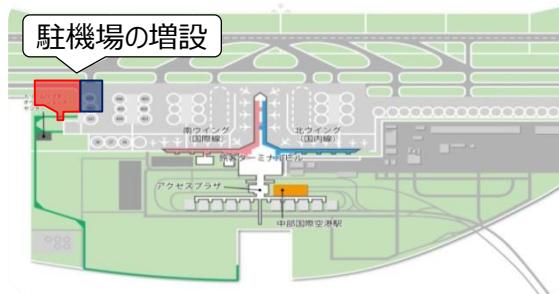
- ・平成28年度供用開始予定
- ・国際線専用

中部国際空港

航空機駐機場の増設

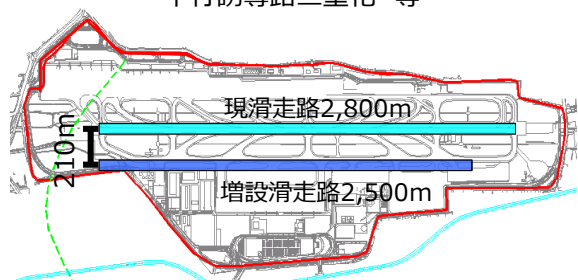
平成27年12月10日より 4スポット増設

平成28年度末より 5スポット増設予定



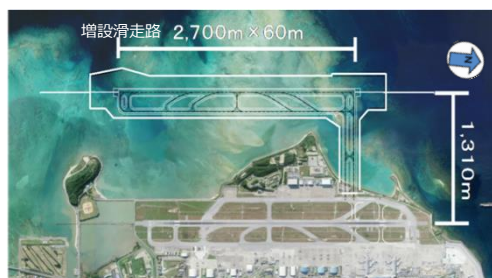
福岡空港

- ・滑走路増設事業 (供用開始予定日：平成37年3月末)
- ・平行誘導路二重化 等



那覇空港

- ・滑走路増設事業 (供用開始予定日：平成32年3月末)
- ・航空機駐機場の増設 等



質問 羽田空港の国際線増便は空港周辺地域にも良い影響はありますか。

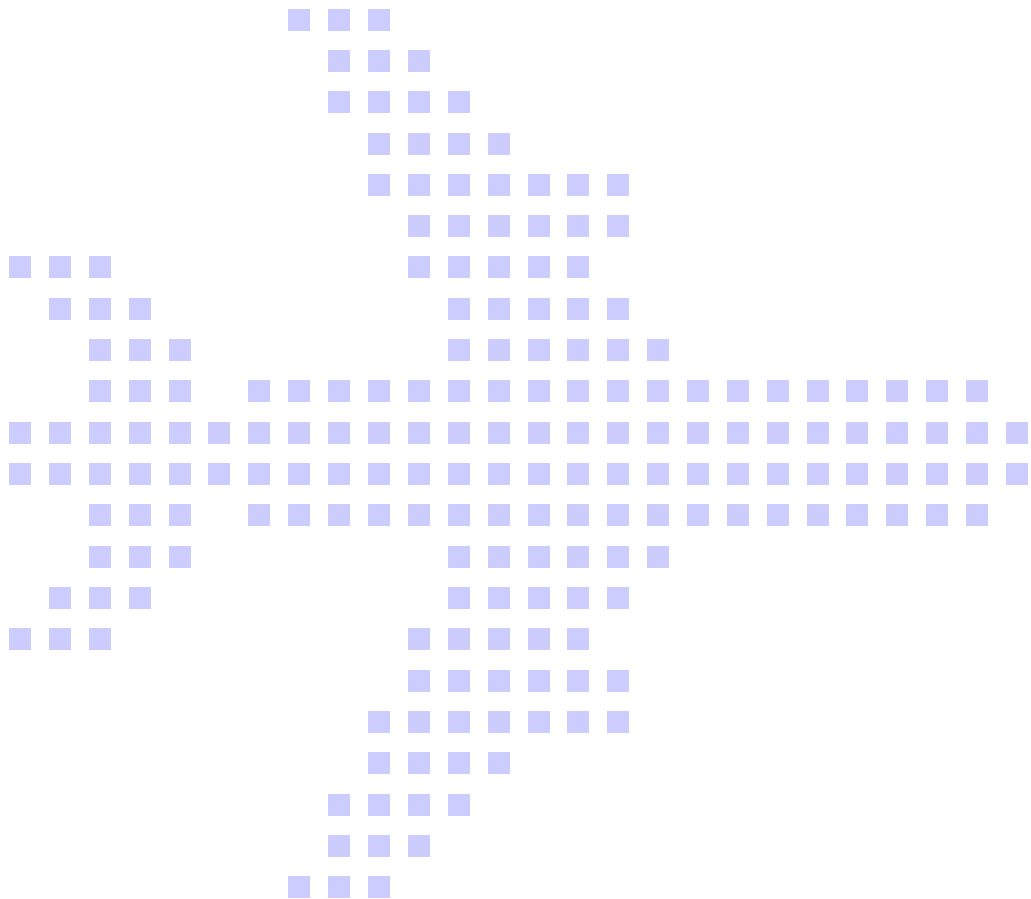
- 羽田空港を利用して日本を訪れる外国人観光客の数が増加する中、空港周辺地域を訪れる人も多く、今後、羽田空港の更なる国際化に伴い、地域の発展が期待されます。
- 羽田空港の国際線の便数が増えるにつれ、羽田空港を利用して日本を訪れる外国人観光客の数も増えていきます。
- こうした外国人観光客の中には大田区、品川区、川崎市などの空港周辺地域を訪れる人も多く、例えば、商店街で買い物をする人、銭湯を楽しむ人なども見受けられます。空港周辺の地域においては、地域の方々を含め官・民が一体となって、羽田空港を核とした外国人観光客誘致のための取り組み、まちづくり等が進められています。
- また、羽田空港の周辺地域では、現在、国際拠点空港としての機能を活用して、先端医療技術とものづくり技術との医工連携の推進、国際的な研究・交流・商取引を促進するための土地利用、周辺のまちづくりと一体となった戦略的な都市・交通インフラ整備等が進められようとしています。



- 今後も、観光、産業、国際交流等の観点から羽田空港と地域との連携を更に発展させ、地域の持続可能な発展や、世界から資金・人材・企業等を集める国際的ビジネス拠点の形成等に貢献していく考えです。

3

羽田空港の国際線増便の実現方策

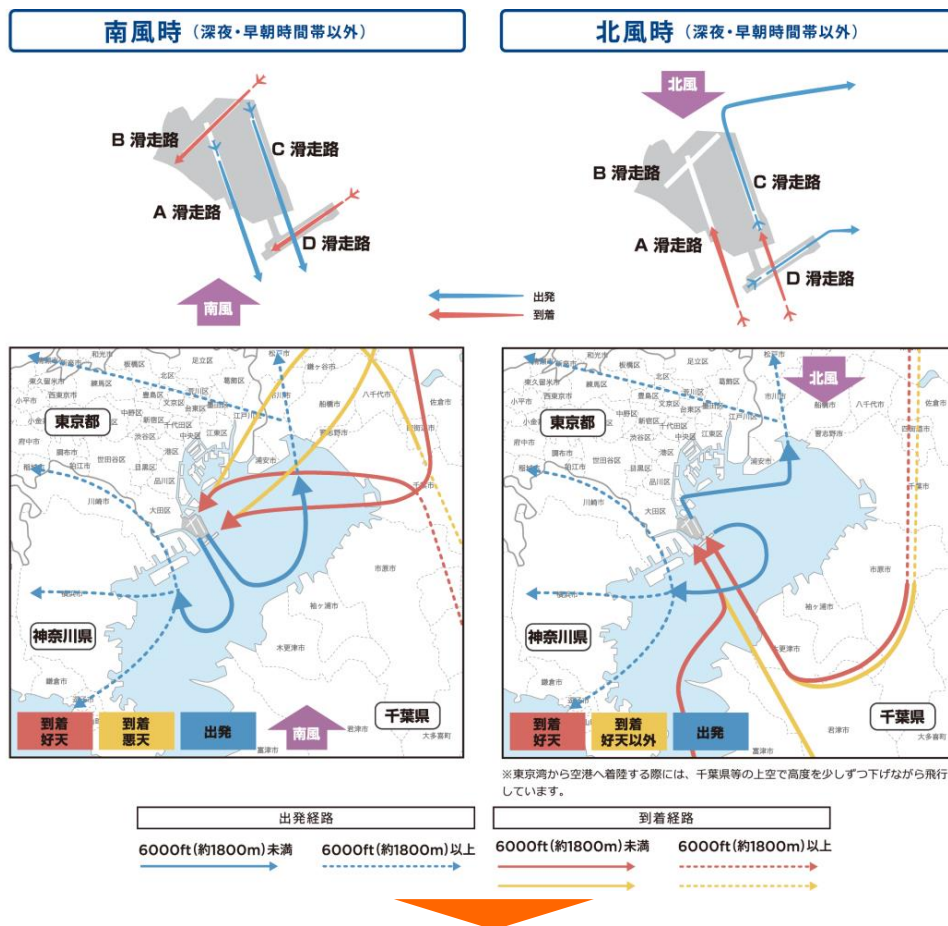


質問 現在、滑走路はどのように使われているのですか。

- 風向きにあわせて2通りの滑走路の使い方があります。離着陸する航空機の飛行経路は、騒音の影響を減らすため、東京湾上空を有効に使って設定されています。

Q1 羽田空港の滑走路の使い方や飛行経路は、どのようになっていますか。

- 南風と北風が多くみられる羽田空港では、風向きに合わせて2通りの滑走路の使い方があります。
- 離着陸する航空機の飛行経路は、騒音の影響を減らすため、東京湾上空を有効に使って設定されています。



使用する滑走路の本数と飛行経路により、1時間当たりの発着回数が決まっています。

1. 今のままでは、増やすことができる便数は限られています。
2. 新しい滑走路を作ったとしても、それだけでは便数を増やすことはできません。
3. 便数を増やすためには、滑走路の使い方を見直し、これに合った飛行経路を設定する必要があります。

Q2 航空機が安全に離着陸するためのルールを教えてください。

- 航空機が空港に離着陸するためには、滑走路の使い方や飛行経路に関して安全のために定められた国際的なルールがあります。

【ルール①】航空機は風に向かって離着陸しなければなりません。

- ・ 航空機が安全に離着陸するためには、風に向かって飛ぶ必要があります。このため、滑走路の使い方は、空港周辺の風向きによって決まります。

【ルール②】航空機は空の「みち」を飛行します。

- ・ 空にも地上と同様に航空機が飛行すべき「みち」（飛行経路）があります。空港に離着陸する航空機は、高い建築物などの地上の障害物等と十分な間隔が確保された飛行経路を飛行する必要があります。
- ・ 特に着陸の際には、航空機は電波により自分の位置を確認しながら、国際基準により定められた一定の角度（3度）で滑走路に向かって直進しながら降下します。

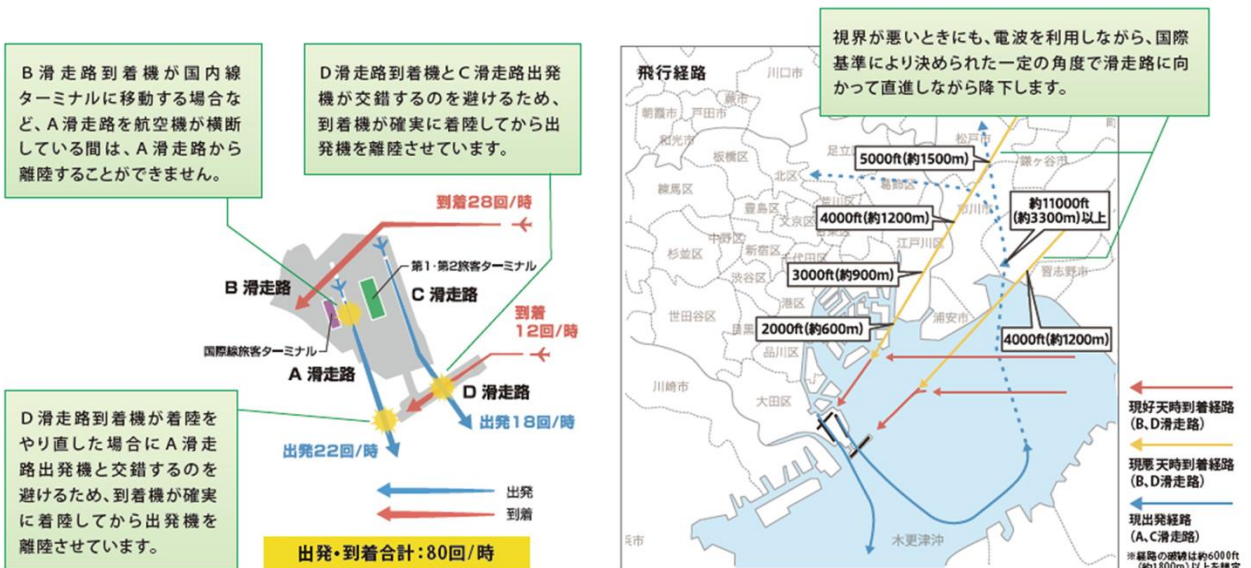
【ルール③】航空機は他の航空機と十分な間隔を確保する必要があります。

- ・ 航空機は高速で飛行するため、航空機同士が十分な間隔を確保する必要があります。水平方向（距離）、垂直方向（高度）にどの程度の間隔を確保する必要があるかは、国際基準により定められています。
- ・ 一つの滑走路は、一度に一機の航空機しか使用することができません。また、航空機は、突風などにより途中で着陸を取りやめ再び上昇する場合があるため、他の滑走路に着陸する航空機との間隔にも注意をする必要があります。

Q3 南風時の現在の使い方を詳しく教えてください。

- 海側（浦安沖）から到着し、海側（木更津沖）へ出発します。4本の滑走路を効率的に使うことで、1時間当たり80回の離着陸が可能です。

現在 南風時（深夜・早朝時間帯以外）



Q4 北風時の現在の使い方を詳しく教えてください。

- 海側（木更津沖）から到着し、海側（浦安沖）へ出発します。3本の滑走路を効率的に使うことで、1時間当たり80回の離着陸が可能です。

現在 北風時（深夜・早朝時間帯以外）



Q5 北風時と南風時の切り替えは、どのように決まっていますか。

- 滑走路運用の切り替えについては、管制官が、風向、風速などの気象状況に基づき、気象予報、交通量、交通流など（ときにはパイロットからの助言も得つつ）あらゆる情報を勘案しつつ判断しています。

質問 今回の提案内容について教えてください。

- 羽田空港の今の使い方のままでは、増やすことができる便数は限られています。将来に向け便数をさらに増やすためには、滑走路の使い方と飛行経路を見直す必要があります。
- 今後、住民の皆様のご意見、ご質問、ご懸念等を聴かせていただいた上で、環境対策のあり方、新飛行経路の運用方法等、より環境影響に配慮した方策を策定していきます。

南風時

需要が集中する時間帯において滑走路の使い方・飛行経路を見直すことにより、発着回数を増やすことができます。

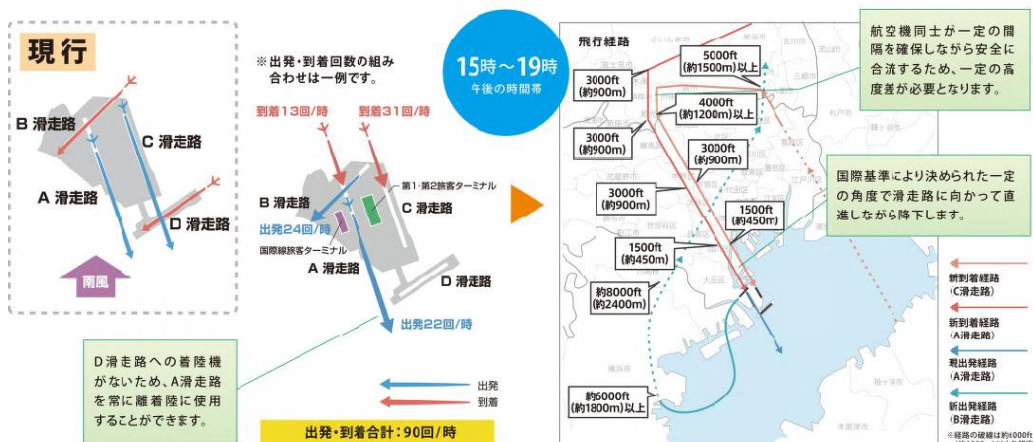
現在 南風時(深夜・早朝時間帯以外)

夏場に多くみられる南風時には、海側(浦安沖)から到着し、海側(木更津沖)へ出発しています。4本の滑走路を効率的に使うことで、1時間当たり80回の離着陸が可能となっています。



提案 南風時(15~19時) これ以外の時間帯は、従来の経路となります。

検証の結果、都心側から到着、海側(川崎沖・木更津沖)へ出発する方法が最も効率的であることが分かりました。国際基準に従って飛行経路を設定すると、1時間当たりの発着回数を現行の80回から90回まで増やせる試算となり、国際線の需要が集中する午後の時間帯(15時~19時)に限ってこの飛行経路を運用するとしても、国際線の便数を増やすことができます。

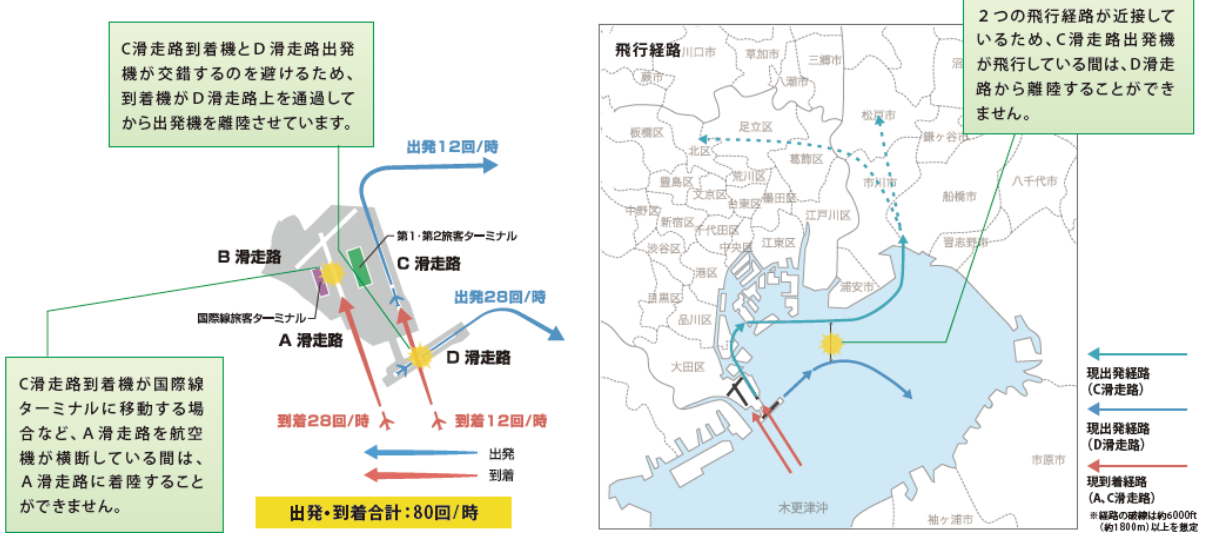


北風時

需要が集中する時間帯において飛行経路を見直すことにより、発着回数を増やすことができます。

現在 北風時(深夜・早朝時間帯以外)

冬場に多くみられる北風時には、海側(木更津沖)から到着し、海側(浦安沖)へ出発しています。3本の滑走路を効率的に使うことで、1時間当たり80回の離着陸が可能となっています。



提案 北風時(6~10時半・15~19時) これ以外の時間帯は、従来の経路となります。

海側(木更津沖)から到着、海側(浦安沖)へ出発する現在の滑走路の使い方が最も効率的です。国際基準に従って飛行経路の見直しを行うと、1時間当たりの発着回数は現行の80回から90回まで増やせる試算となり、出発需要がピークになる朝の時間帯(6時~10時半)と、国際線の需要が集中する午後の時間帯(15時~19時)に限ってこの飛行経路を運用するとしても、便数を増やすことができます。



Q1 今回の提案が実現した場合、国際線の便数はどのくらい増えるのでしょうか。

- 滑走路の使い方・飛行経路などを見直すことにより、深夜・早朝時間帯以外の国際線について、最大で年間約3.9万回（約1.7倍）の発着回数の増加が可能となる試算となります。



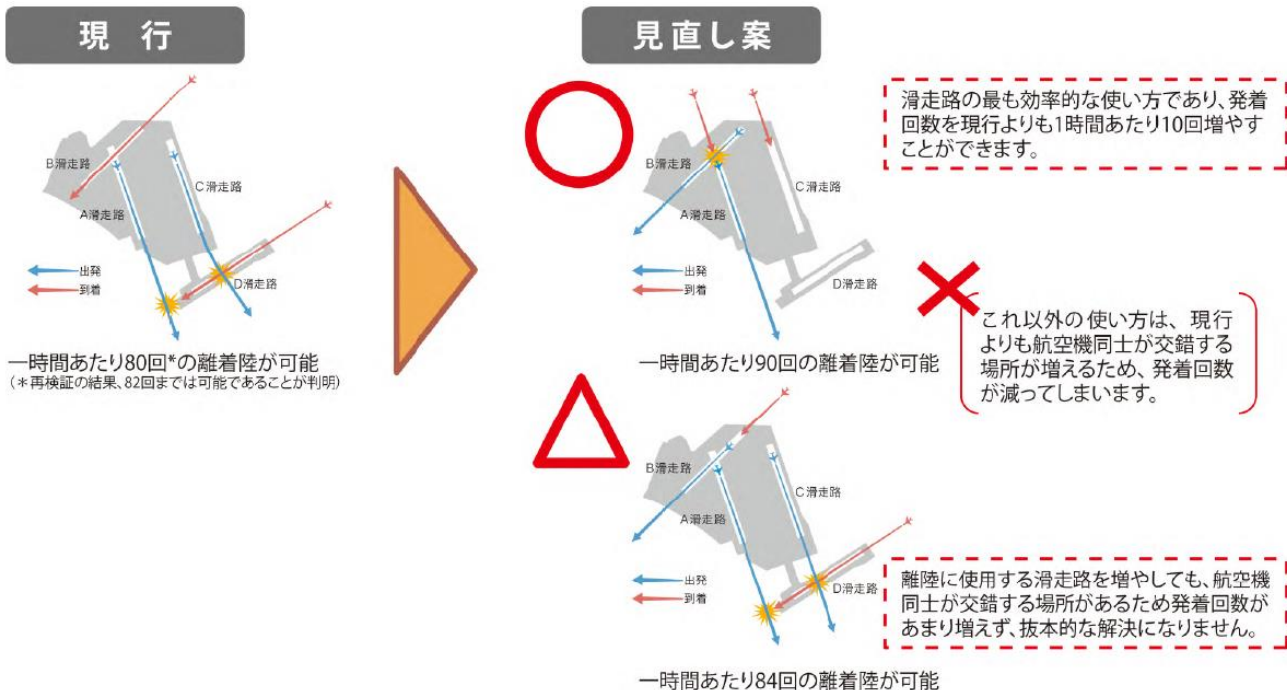
首都圏や日本各地と世界をさらに結びつけ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催や、将来の経済・社会の維持・発展をより確かなものとしします。

Q2 今の滑走路の使い方のままで、便数を増やすことはできないのですか。

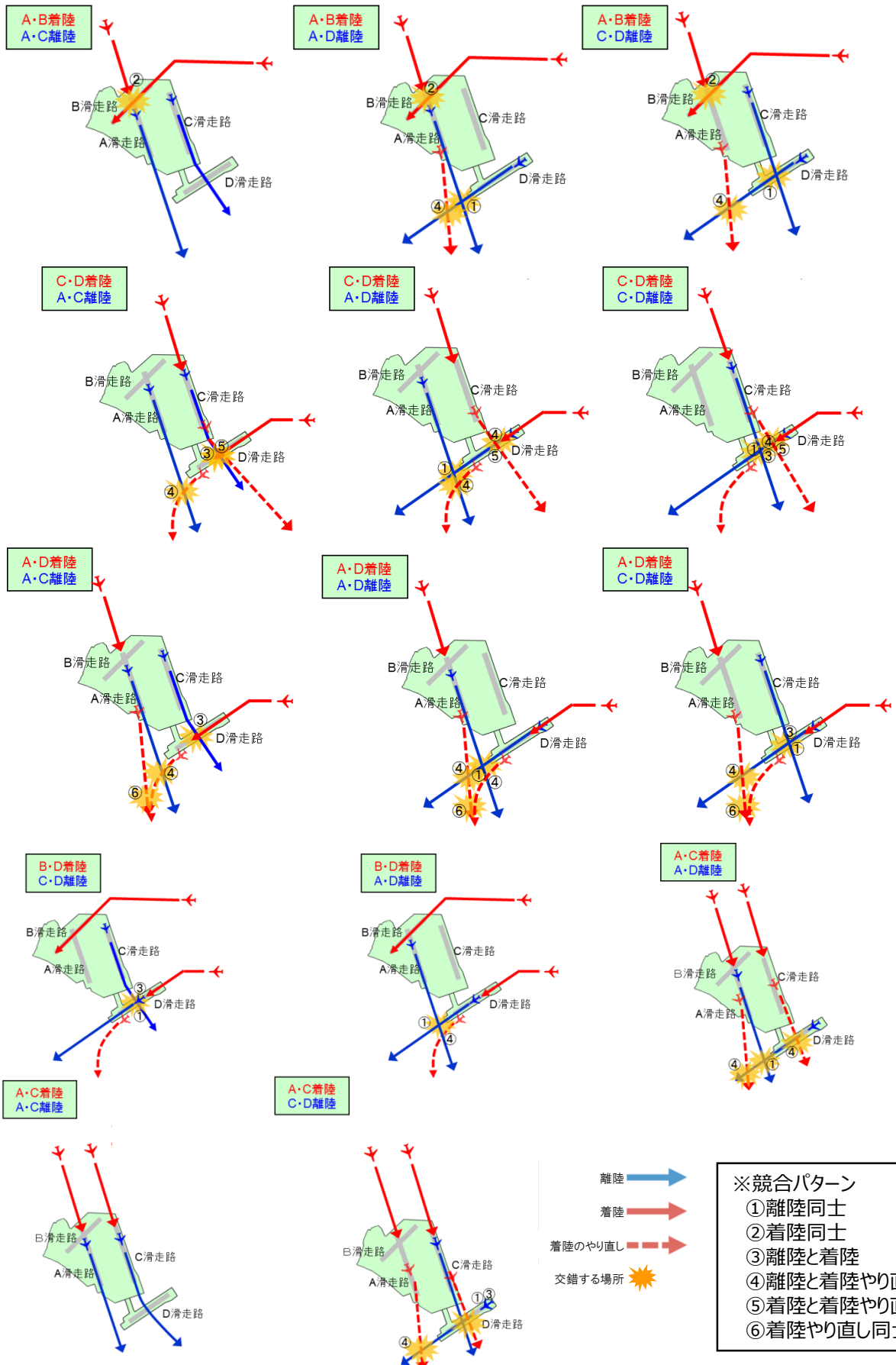
- 航空機は、安全のため、他の航空機と十分な間隔を確保する必要があります。現在のよう、東京湾上空に飛行経路を設定し、海側から到着し、海側へ出発する方法では、1時間当たりの発着回数は現行の80回から82回までしか増やすことはできません。
- 従来からの考え方や方法を踏まえながら、同時に、時間帯で大きく異なる国際線の航空需要に対応するためには、環境影響等に配慮しつつ、需要の高い時間帯において、より効率的に滑走路や飛行経路を使う方策を考えていくことが必要です。

Q3 滑走路の使い方や飛行経路について、便数が増えるような方策は他にないのですか（南風時）。

- 南風時の滑走路の使い方について、安全を前提に様々なケースを検証した結果、2つのケースのみにおいて便数が増える可能性があることがわかりました。
- さらに、そのうちの1つは、滑走路やその周辺での航空機同士の交錯が多く、発着回数が増えかしか増えず（1時間あたり84回まで）、都心側から到着、海側（川崎沖・木更津沖）へ出発する方法が最も効率的であることがわかりました（同90回）。
- 国際線の航空需要は、日本と海外の時差などにより、一部の時間帯に集中していることから、この時間帯の発着枠をできるだけ多く確保する必要があります。
- 今回は、この最も効率的な滑走路の使い方に合わせて、新しい飛行経路を提案しています。



【参考】 検証を行った南風時の滑走路運用パターン



Q4 滑走路の使い方や飛行経路について、便数が増えるような方策は他にないのですか（北風時）。

- 北風時については、海側（木更津沖）から到着、海側（浦安沖）へ出発する現在の滑走路の使い方が最も効率的であり、見直しを行う必要はありません。ただし、東京湾上空の混雑により出発機の便数が制限されているため、飛行経路を見直す必要があります。
- この場合において、航空機の間隔を十分確保した飛行経路とすることで、D滑走路からの出発機の有無に関わらず、C滑走路から離陸することができます。
- 航空機（飛行経路）の間隔を十分に確保するためには、何らかの陸上に飛行経路を設定する必要がありますが、東京湾上空でできるだけ高度を確保した上で、比較的広い河道を持つ荒川の上空を利用してさらに上昇する方法が騒音影響を軽減する上で最も良い方策と考えています。

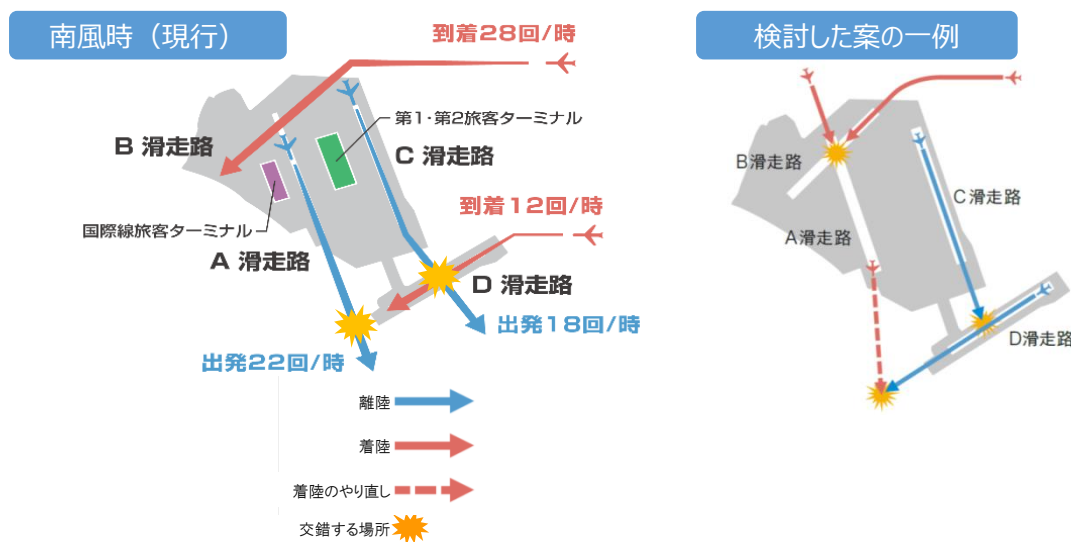


Q5 発着枠に余裕のある深夜・早朝時間帯を使えば良いのではないのですか。

- 国際線については、日本の地理的位置や時差等から、就航需要のある時間帯については、どうしても偏りが生じることとなります。
- 特に、15:00～19:00の時間帯には国際線の需要が集中することとなり、こうした時間帯を中心に発着回数を増やすことが必要です。

Q6 D滑走路をもっと活用すればよいのではないですか。

- 航空機が空港に離着陸するためには、他の航空機との交錯を避ける必要があります。
- 例えば南風時にD滑走路を離陸に使用すると、A、C滑走路からの出発機と交錯しないように、一方の航空機が離着陸している間、もう一方の航空機は離着陸ができません。
- このため、航空機が待機する時間が多くかかってしまい、現行よりも便数は減ってしまいます。



- なお、今回の提案では、南風時にはD滑走路を使用しないこととなっていますが、北風時にはD滑走路をフル活用することとしています。4本の滑走路があることにより、風向きに関わらず1時間あたり最大90回の発着が可能になります。

Q7 横田空域が返還されれば、増便が可能になるのではないですか。

- 現在、羽田空港の発着回数は、横田空域によって制約を受けているわけではありません。
- 横田空域が返還されても、今回提案しているように、滑走路の使い方・飛行経路の見直しを行わなければ便数を増やすことはできません。

Q8 新たな空港を海上に作ればよいのではないですか。

- 羽田空港、成田空港に続く第3の空港を海上に作ることは、長期的な方策の一つとして、従来より、調査・検討が行われてきました。
- しかしながら、今ある施設の有効活用、工事費用・期間、交通アクセスなど様々な観点から、引き続き課題検討が必要と考えています。

Q9 新たな滑走路を作ればよいのではないですか。

- 東京湾上空や滑走路の周辺は大変混雑しています。
- 仮に将来、新しい滑走路を作ったとしても、滑走路の使い方を見直し、飛行経路を適切に設定しなければ便数を増やすことはできないことがわかっています。

Q10 機体を大型化すれば良いのではないですか。

- 人口減少、少子高齢化が進む中、我が国の経済社会を維持・発展させていくためには、今後より一層諸外国との結びつきを深めていくことが重要です。一方で、羽田・成田両空港においては、国際線の需要が集中する時間帯を中心として、航空会社からの国際線就航の需要に応えきれない状況にあります。
- その結果、羽田・成田両空港を合わせた国際線旅客数や就航都市数は、香港、シンガポール、ソウルなどアジア主要諸都市の後塵を拝しており、我が国の将来のために、羽田・成田両空港の機能強化を図ることが必要不可欠です。
- 従って、我が国を取り巻く経済社会情勢を鑑みつつ、航空会社からの国際線の就航需要等を踏まえると、羽田空港における国際線需要については、既存路線の機材を大型化すれば対応できるようなものではなく、また、就航都市数を増やすためにも、そもそもの発着枠の拡大を図ることが必要と考えています。

Q11 いきなり3.9万回を増便するのではなく、段階的に増やせばよいのではないですか。

- 前述の通り、羽田・成田両空港を合わせた国際線旅客数や就航都市数は、香港、シンガポール、ソウルなどアジア主要都市の後塵を拝しており、また、これらの都市が持つ空港では、新たな滑走路やターミナルの建設など更なる拡張が進められています[※]。
- 我が国を取り巻く経済社会情勢やアジア主要空港の動向などを踏まえると、我が国の将来のために、羽田・成田両空港の機能強化を図ることが必要不可欠であり、羽田空港における国際線の増便については、段階的ではなく、なるべく早く3.9万回を増便を実現させることが必要と考えています。

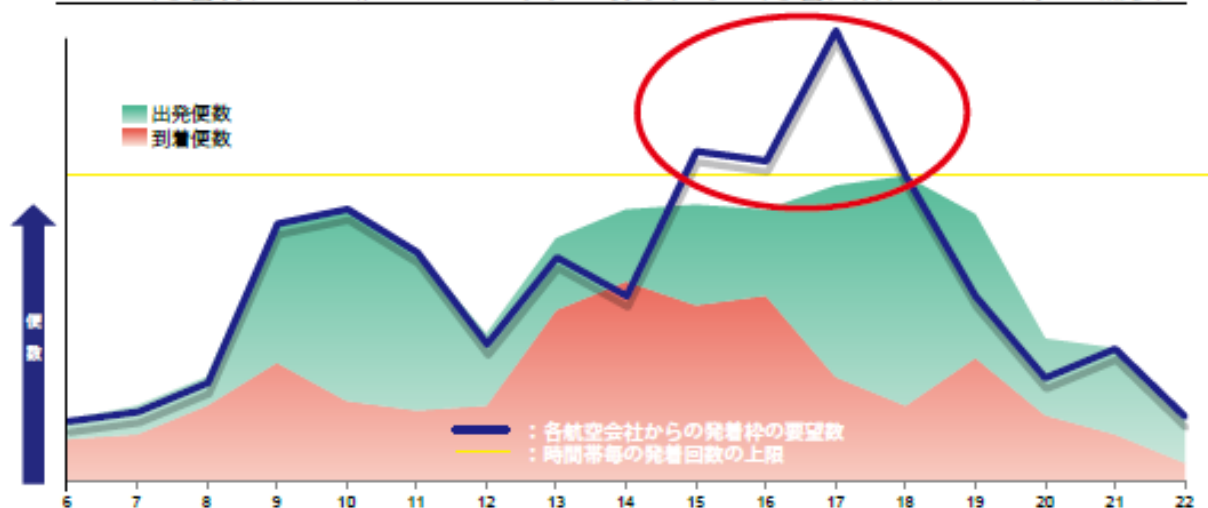
※) 香港国際空港：第3滑走路の建設、第2ターミナルの拡張
チャンギ国際空港：第3滑走路、第4ターミナル、第5ターミナルの建設
仁川国際空港：第4滑走路、第2ターミナルの建設 等

Q12 新飛行経路の午後の運用時間（15時～19時）は守られるのですか。

- 国際線の航空需要については、日本と海外との時差の関係もあり、一部の時間帯に集中している状況です。
- この需要が集中する時間帯の発着枠の確保を図るとともに、義務教育の時間や夜間にお休みになる時間帯を踏まえ、新飛行経路案の午後の運用時間を、15時～19時として提案しています。なお、15時～15時半及び18時半～19時の時間帯については、飛行経路の切り替えにあたる時間として設定しています。
- 国際航空需要の現状を踏まえると、提案している時間帯での運用により当面の航空需要に対応することが可能と考えています。

成田空港

1日の発着枠配分状況イメージ図（時間帯毎の発着回数と航空会社の需要）



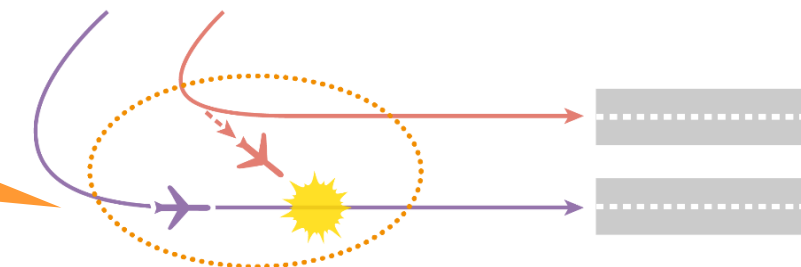
(出典) 首都圏空港機能強化技術検討小委員会資料より抜粋

Q13 南風時の新たな到着経路案について、長い直線部分を短くしたり、もつと空港の近くで合流させることはできないのですか。

- 滑走路や経路の間隔があまり広くない場合において、航空機が互いに十分な間隔を確保しながら安全に合流するためには、安全確保のため、合流時の高度差と、十分な直線区間が必要となります。
- また、航空機は、空港からの電波などを利用することで、天候にかかわらず、滑走路に向かって一定の角度でまっすぐ降下することができます。

旋回しながら着陸する場合

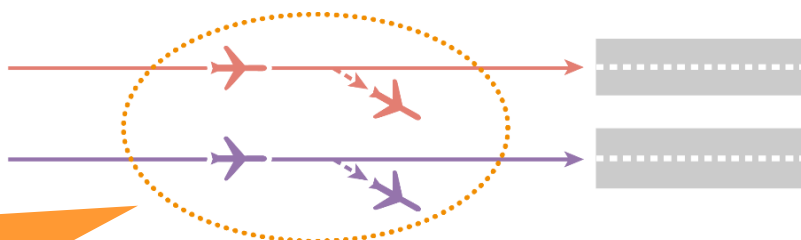
天候等により少しでも飛行経路から外れた場合、航空機同士が衝突するリスクが高まります。



平行に着陸する場合

十分な直線の飛行経路を確保し、電波を利用して自分の正確な位置を把握しながら着陸することで、安全に着陸ができます。

万一どちらかが飛行経路から外れた場合でも、速やかに回避することができます。



※ 2つの飛行経路が合流する際には、航空機同士の安全な間隔を確保するため、国際基準に基づき、一定の高度差（1,000フィート：約300m）を確保することとされています。

- 航空機は、天候が悪くパイロットが滑走路を目で確認できない場合でも、直進する電波を利用して、最適なコース（位置・高度）を飛行しているかどうかを確認しながら着陸します。

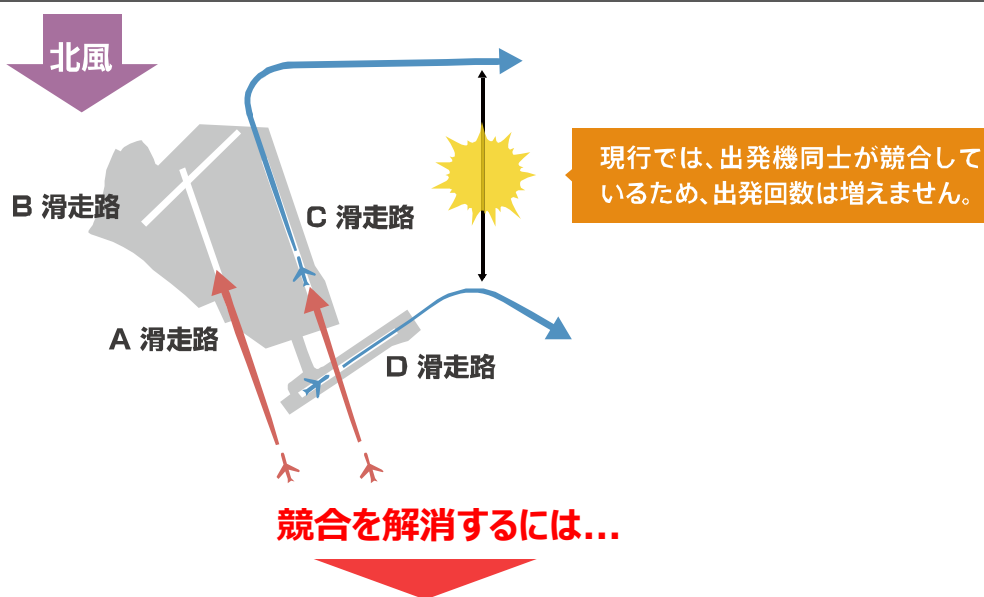


Q14 北風時の新たな出発経路案が、朝の時間帯に運用することとされているのはどうしてですか。

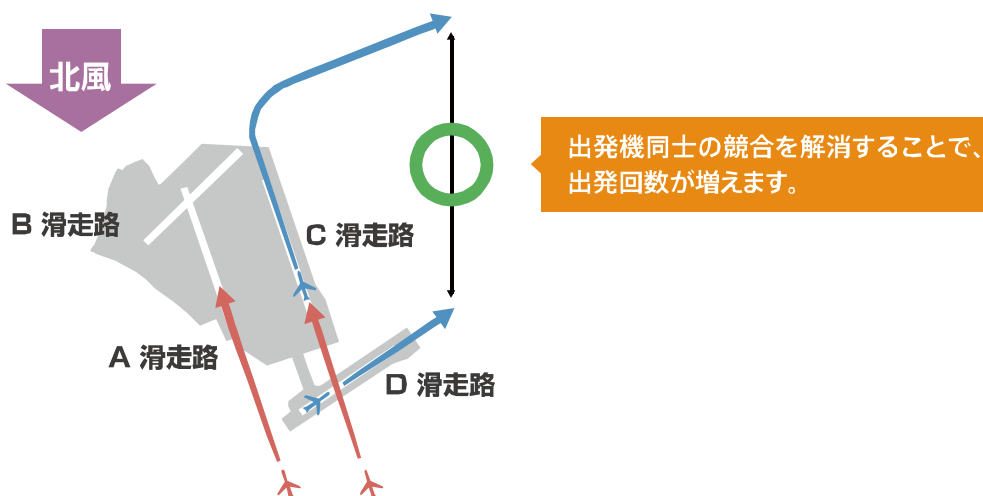
- 朝の時間帯は出発需要が高く、現行の運用では需要に対応することができません。
- 朝の時間帯の出発需要に対応するには、北風時には新飛行経路を運用する必要があります。（北風時に出発回数を増やすには、出発機同士の競合を解消する必要があります。）
- 航空機の間隔を十分確保した飛行経路とすることで、D滑走路からの出発機の有無に関わらず、C滑走路から離陸することができます。

北風時

現行経路



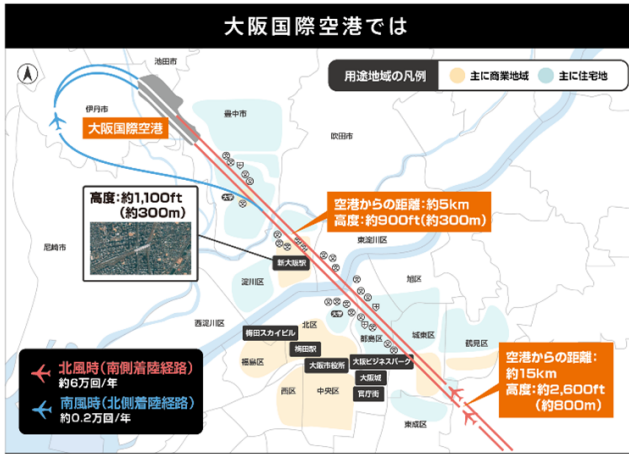
新飛行経路



※ 南風時には、現行経路のままでも到着回数を抑えることで、出発需要に対応することができます。

Q15 都心部の上空を飛行する事例として、他にどのようなものがあるのでしょうか。

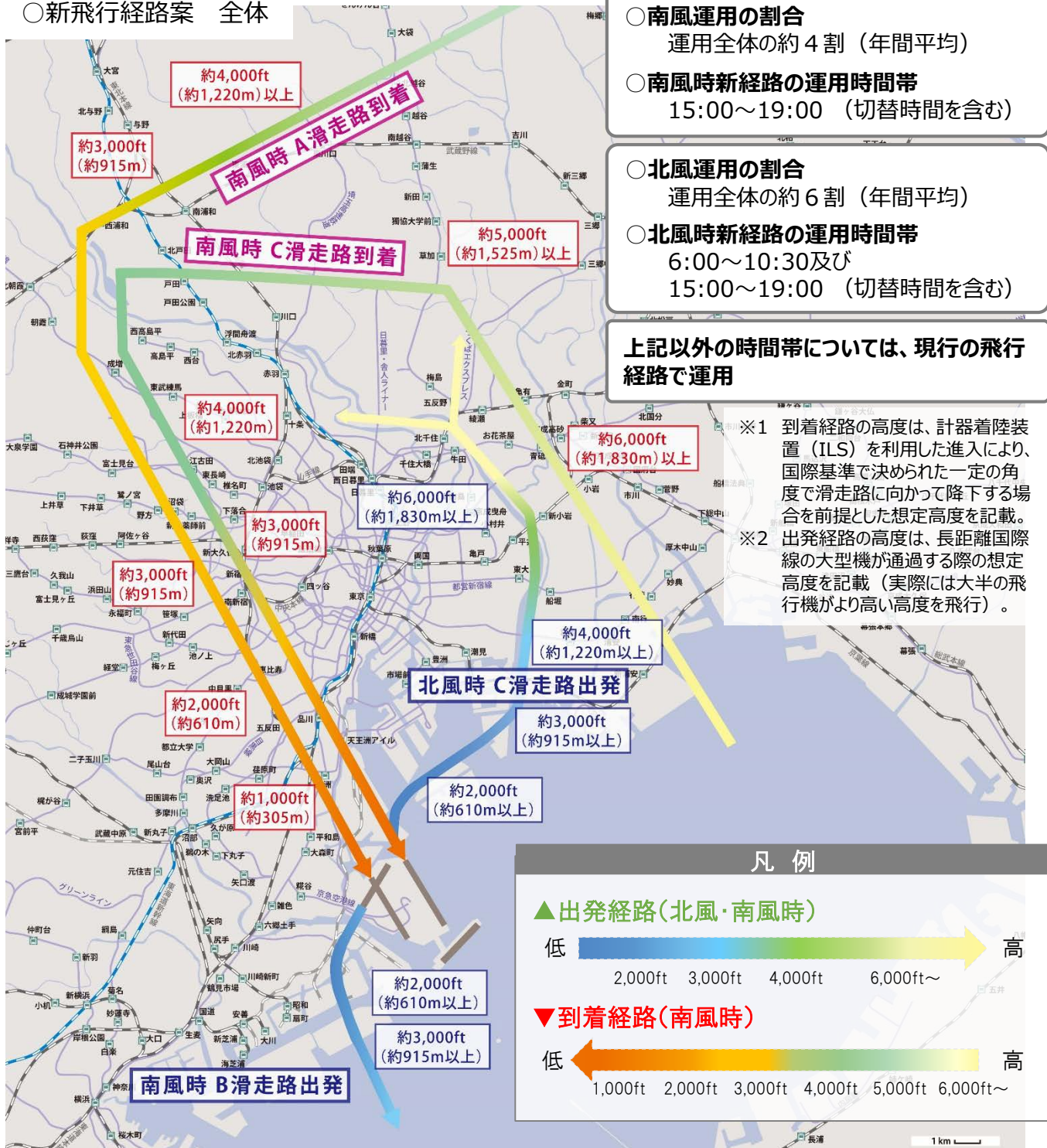
- 大阪国際空港や福岡空港では、現在、市街地の上空を飛ぶ飛行経路があります。
- また、ロンドンのヒースロー空港やニューヨーク周辺の空港等、海外の空港でも同様の例があります。



質問 現在想定されている飛行経路を教えてください。

- 新飛行経路案はまだ構想段階のものですが、現時点で想定されている経路案は以下の図の通りです。具体的な飛行経路や高度については、今後の関係者との調整、第2フェーズで検討している対策、管制運用上の検証等を踏まえ、引き続き検討されます。

○新飛行経路案 全体



○南風運用の割合

運用全体の約4割 (年間平均)

○南風時新経路の運用時間帯

15:00~19:00 (切替時間を含む)

○北風運用の割合

運用全体の約6割 (年間平均)

○北風時新経路の運用時間帯

6:00~10:30及び
15:00~19:00 (切替時間を含む)

上記以外の時間帯については、現行の飛行経路で運用

- ※1 到着経路の高度は、計器着陸装置 (ILS) を利用した進入により、国際基準で決められた一定の角度で滑走路に向かって降下する場合を前提とした想定高度を記載。
- ※2 出発経路の高度は、長距離国際線の大型機が通過する際の想定高度を記載 (実際には大半の飛行機がより高い高度を飛行)。

○羽田空港周辺（南風時）



○羽田空港周辺（南風時）



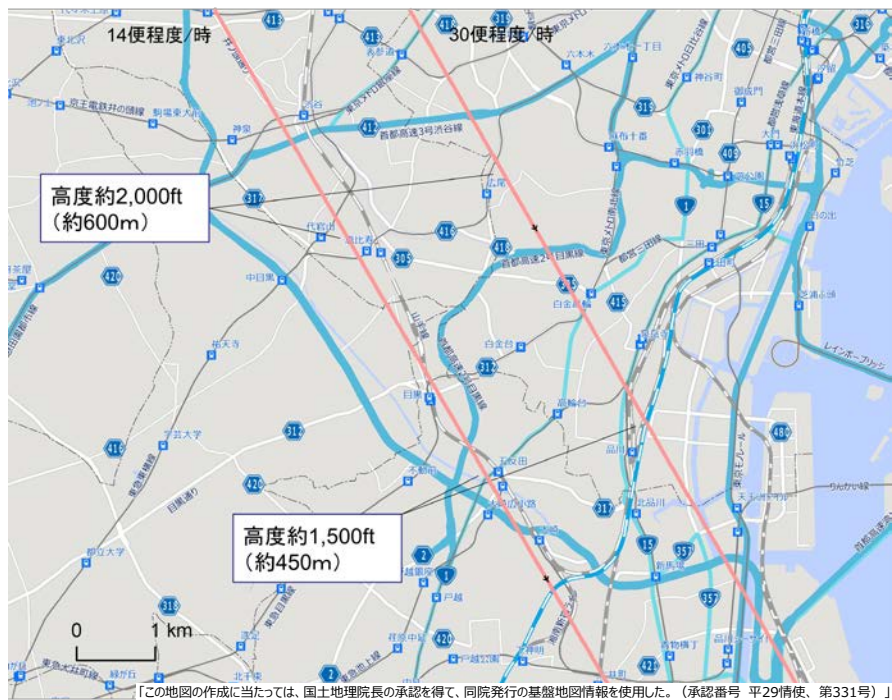
- 具体的な飛行経路や高度については、今後の関係者との調整、第2フェーズで検討している対策、管制運用上の検証等を踏まえ、引き続き検討していくものであるが、上記の飛行経路等は、今後の議論に向けた情報提供として、滑走路と同程度の幅で、現時点で想定される情報を示したものである。
- 離陸時の飛行経路、通過高度は、重量等の運航条件や風向き等の気象条件によって変動するため一例を記載。
- 便数は、組み合わせの中の一例を記載。

○着陸1,000ft周辺（南風時）



— 着陸経路

○着陸2,000ft周辺（南風時）



— 着陸経路

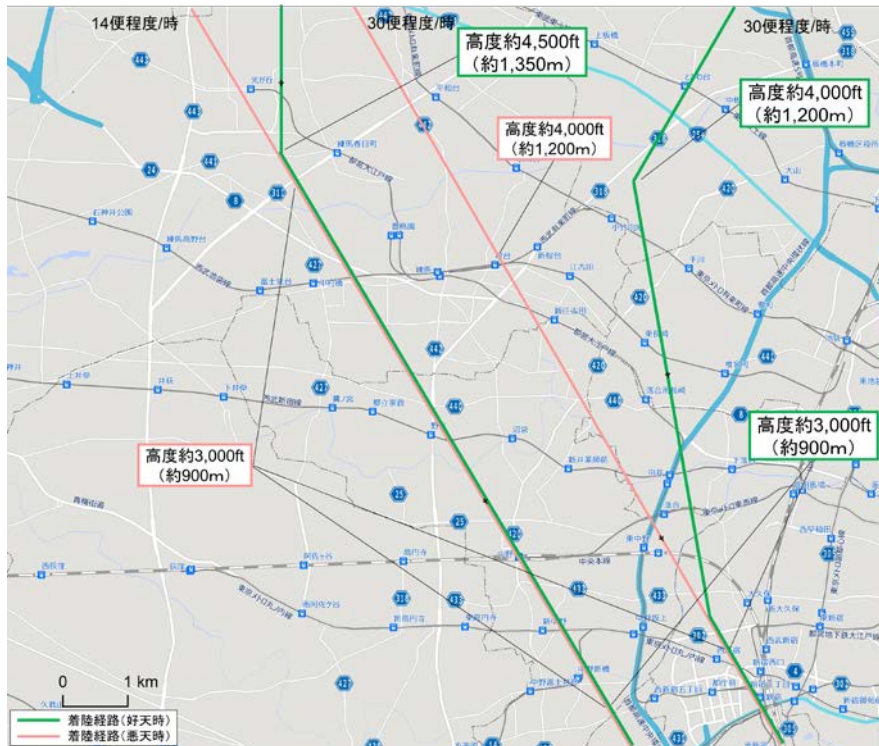
- 具体的な飛行経路や高度については、今後の関係者との調整、第2フェーズで検討している対策、管制運用上の検証等を踏まえ、引き続き検討していくものであるが、上記の飛行経路等は、今後の議論に向けた情報提供として、滑走路と同程度の幅で、現時点で想定される情報を示したものである。
- 便数は、組み合わせの中の一例を記載。

○着陸3,000ft周辺（南風時）



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平29情使、第331号）」

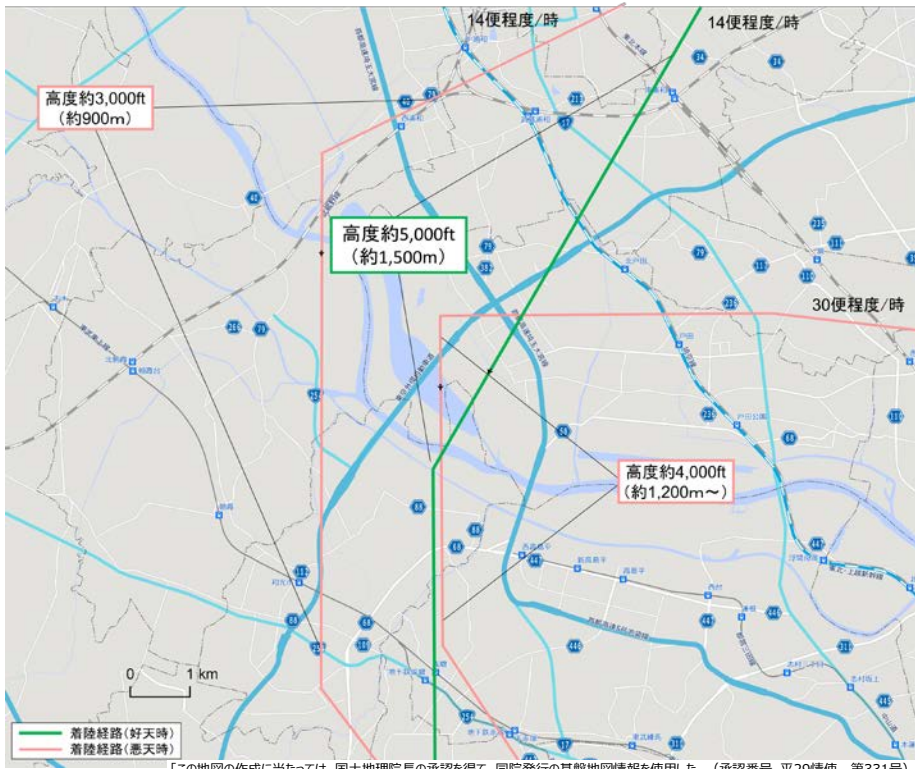
○着陸3,000～4,000ft周辺①（南風時）



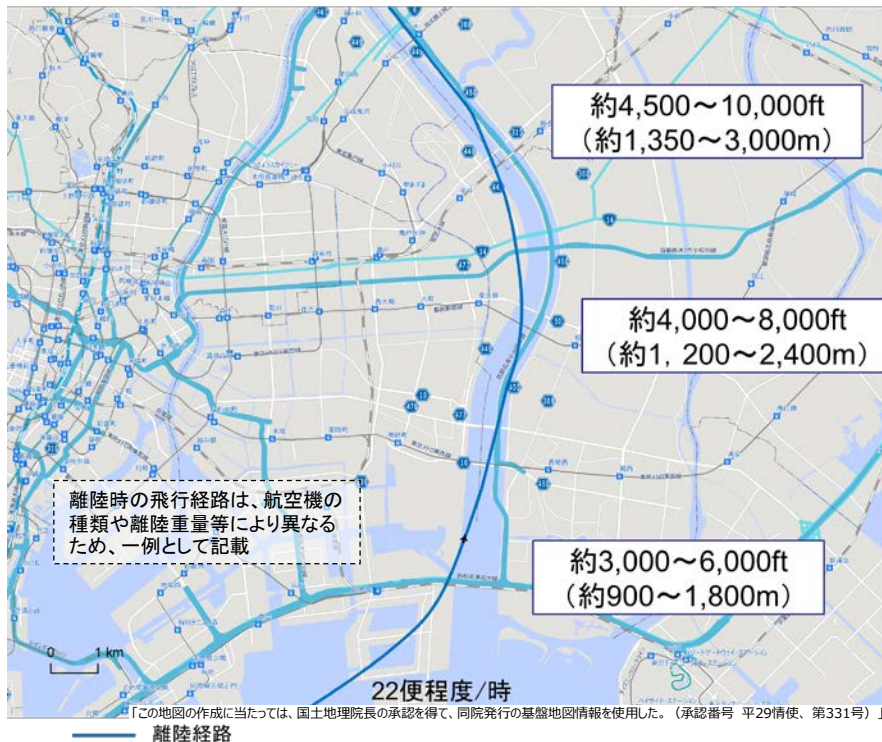
「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平29情使、第331号）」

- 具体的な飛行経路や高度については、今後の関係者との調整、第2フェーズで検討している対策、管制運用上の検証等を踏まえ、引き続き検討していくものであるが、上記の飛行経路等は、今後の議論に向けた情報提供として、滑走路と同程度の幅で、現時点で想定される情報を示したものである。
- 便数は、組み合わせの中の一例を記載。

○着陸3,000~4,000ft周辺②（南風時）



○離陸経路周辺（北風時）



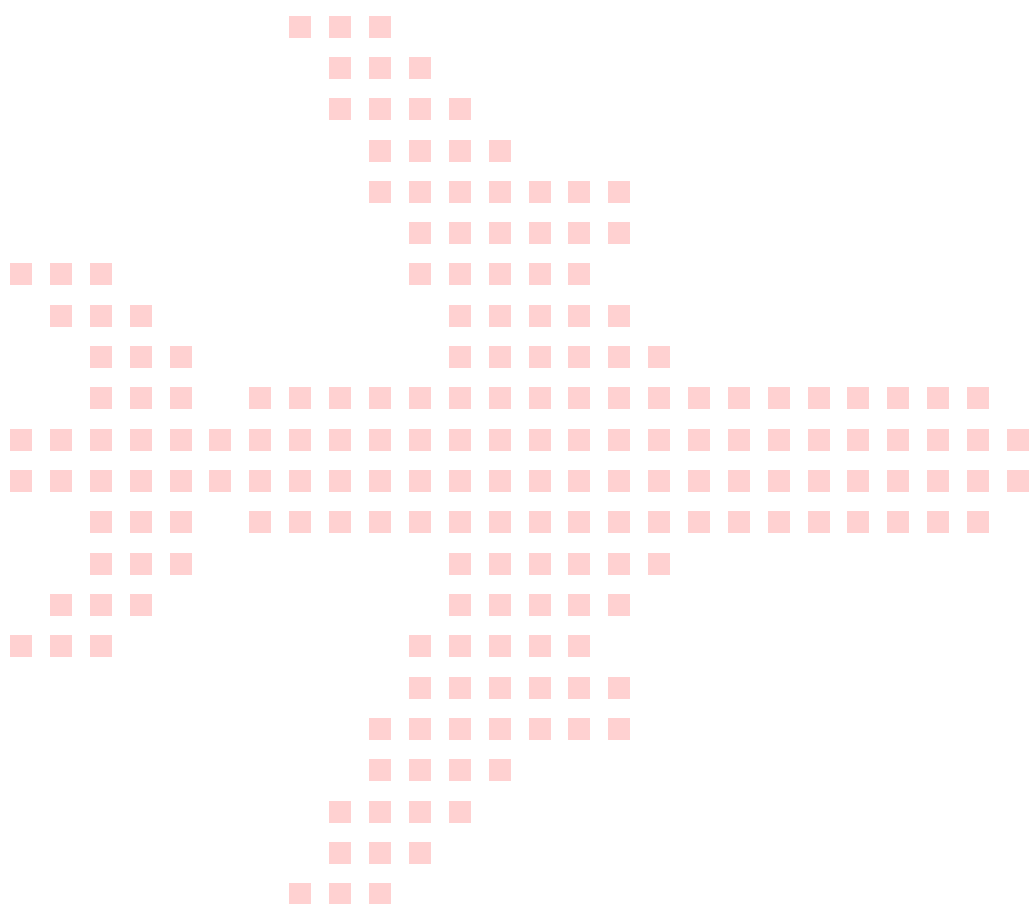
- 具体的な飛行経路や高度については、今後の関係者との調整、第2フェーズで検討している対策、管制運用上の検証等を踏まえ、引き続き検討していくものであるが、上記の飛行経路等は、今後の議論に向けた情報提供として、滑走路と同程度の幅で、現時点で想定される情報を示したものである。
- 離陸時の飛行経路、通過高度は、重量等の運航条件や風向き等の気象条件によって変動するため一例を記載。
- 便数は、組み合わせの中の一例を記載。

質問 将来的に、より環境への影響が少なくなるよう飛行経路を見直すことはできないのですか。

- 将来の技術の進展に応じて、安全を確保しながらより環境影響に配慮した方策を模索していきます。
- 現在の管制・航空機の技術を前提とすれば、安全な離着陸を行うためには、現在提案している飛行経路となります。
- 国土交通省では、産官学の連携の下、航空交通システムの高度化を進めているところであり、今後も、将来の技術の進展に応じ、安全性の更なる向上を図るとともに、より環境影響に配慮した方策を模索していく考えです。

4

新飛行経路による影響

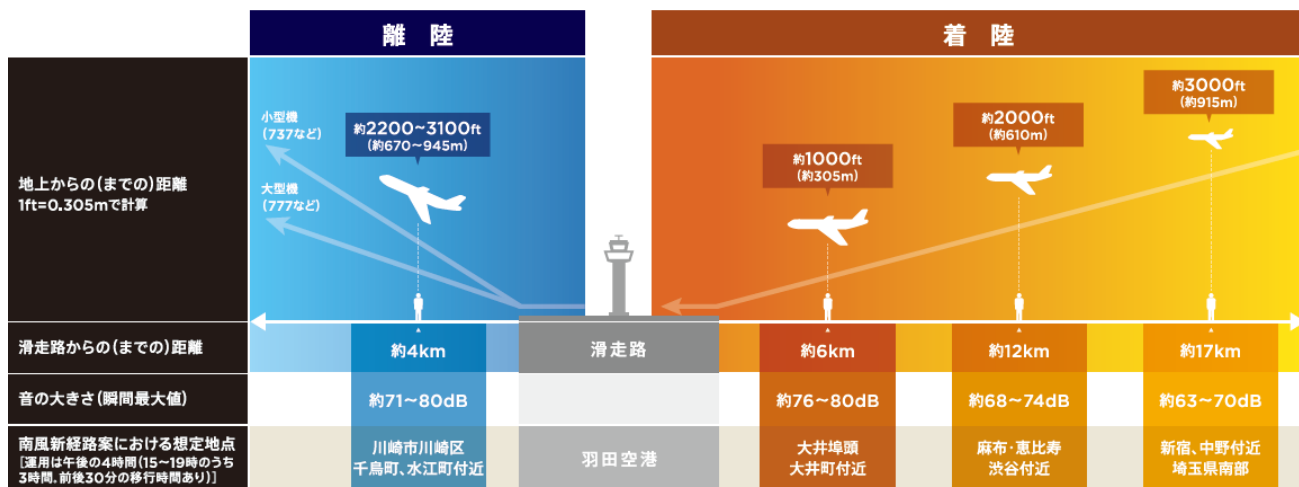


質問 どのように音は聞こえるのでしょうか。

- 高度が高いほど音は小さく、高度が低いほど音は大きくなります。

Q1 航空機からの音はどのように聞こえますか。

- 一般に航空機が小さいほど音が小さく、大きいほど音も大きくなります。
- 一般に高度が高いほど音は小さく、高度が低いほど音は大きくなります。また、着陸の時と、離陸の時では、音の大きさが異なります。（着陸時の高さは全ての機種で同じですが、離陸時の高さは、機種や、燃料の搭載状況等により異なります。）



※ 1 着陸は、計器着陸装置 (ILS) を利用した進入を念頭においており、国際基準に基づき一定の角度 (3度) で降下することを想定したものです。
 ※ 2 デシベル [dB] とは、音の大きさを示す単位。人間の聴覚特性を踏まえた騒音レベル (L_A[dB]) の瞬間最大値 (想定) を示したものです。
 ※ 3 騒音値は、国土交通省が、過去のデータベースから推計した最大値。実際には重量や気象条件により異なる場合があります。

着陸時（経路直下）

最大騒音レベル (L_Amax[dB])						
高度	小型機		中型機		大型機	
	737-800	A320	767-300	787-8	777-200	777-300
1000ft (305m)	76	77	78	76	79	80
1500ft (455m)	71	73	74	72	76	76
2000ft (610m)	68	71	71	69	73	74
2500ft (760m)	65	69	68	66	71	72
3000ft (915m)	63	67	66	64	70	70
3500ft (1065m)	61	66	65	63	68	69
4000ft (1220m)	59	65	64	61	67	68
4500ft (1370m)	58	64	63	60	66	66
5000ft (1525m)	56	63	62	58	65	66

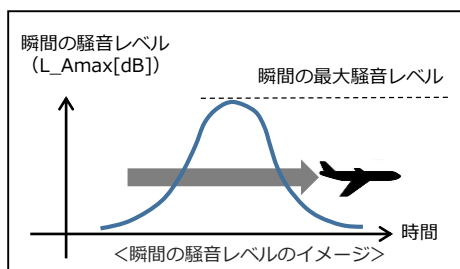
離陸時（経路直下）

最大騒音レベル (L_Amax[dB])						
高度	小型機		中型機		大型機	
	737-800	A320	767-300	787-8	777-200	777-300
2000ft (610m)	78	79	80	74	80	82
2500ft (760m)	76	77	78	71	78	79
3000ft (915m)	73	74	76	69	76	77
3500ft (1065m)	72	72	74	67	74	75
4000ft (1220m)	70	71	73	66	73	74
4500ft (1370m)	68	69	71	64	72	73
5000ft (1525m)	67	68	70	63	70	71
5500ft (1370m)	66	67	69	62	69	70
6000ft (1830m)	65	66	68	61	68	69

<備考>

1. 上表の騒音値は、過去の航空機騒音調査によって取得したデータベースから、飛行経路下における地上観測地点での最大騒音値※を推計した値。
※ 航空機 1 機が観測地点の真上を通過する際に騒音値がピークを迎えるという前提にたって、計算上求められる騒音のピーク値。
2. 実際の騒音値は、離陸重量等の運航条件や風向等の気象条件によって変動する。
3. 上表に記載している機種は羽田空港の2014年夏ダイヤにおいて、大型、中型、小型の各グループで構成比率上位2機種を例として選定。

※ 国土交通省推計値

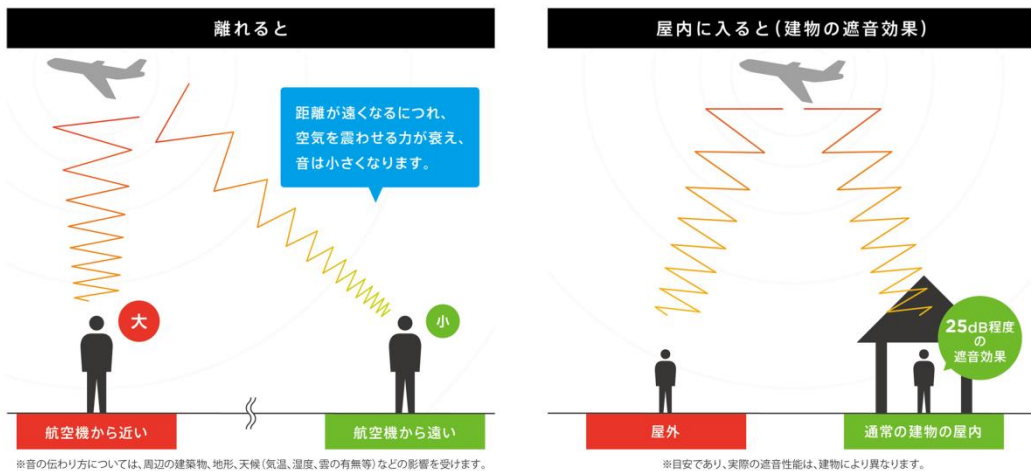


デシベル[dB]とは、音の大きさを示す単位。人間の聴覚特性を踏まえた騒音レベル (L_A[dB]) の瞬間最大値（想定）を示したものです。

- 航空機の音は、飛行経路から離れると聞こえにくくなります。また、屋内では遮音効果により、大幅に小さくなります。近年の住宅は気密性が高まっており、高い遮音性能があるとされています。

Q2 経路の側方や屋内では、どのように聞こえますか。

- 航空機の音は、飛行経路から離れると聞こえにくくなります。また、屋内では、建物の遮音効果により、飛行機の音は大幅に小さくなります。



※音の伝わり方については、周辺の建築物、地形、天候（気温、湿度、雲の有無等）などの影響を受けます。

※目安であり、実際の遮音性能は、建物により異なります。

※平成10年5月 中央環境審議会答申

- また、近年の集合住宅等は、省エネ性能の向上等と相まって気密性が高まっており、一般に高い遮音性能（標準的な集合住宅では概ね45dB程度の遮音性能）があるとされています。

建築物	室用途	部位	適用等級			
			特級	1級	2級	3級
集合住宅	居室	隣戸間界壁 〃 界床	D-55	D-50	D-45	D-40
ホテル	客室	客室間界壁 〃 界床	D-55	D-50	D-45	D-40
事務所	業務上プライバシーを 要求される室	客室間界壁 テナント間界壁	D-50	D-45	D-40	D-35
学校	普通教室	客室間界壁	D-45	D-40	D-35	D-30
病院	病室(個室)	〃	D-50	D-45	D-40	D-35

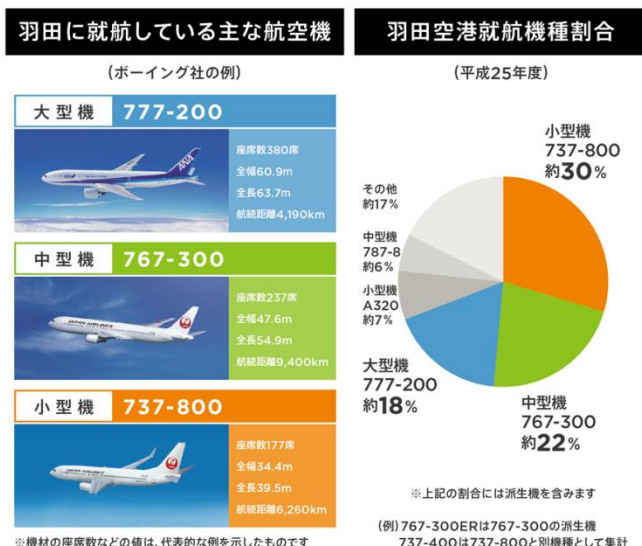
適用等級	遮音性能の水準	性能水準の説明
特級	遮音性能上とくにすぐれている。	特別に高い性能が要求された場合の性能水準。
1級	遮音性能上すぐれている。	建築学会が推奨する好ましい性能水準。
2級	遮音性能上標準的である。	一般的な性能水準。
3級	遮音性能上やや劣る。	やむを得ない場合に許容される性能水準。

※日本建築学会「建築物の遮音性能基準と設計指針」

※「D-〇〇」とは、建築物の遮音性能を表すもの。たとえばD-45とは、概ね45dB程度の遮音性能があることを示す。

Q3 羽田空港ではどのような飛行機が使われているのですか。

- 国内線が多い羽田空港では、主として地方路線と結ぶ中小型機の割合が高くなっています。



Q4 音や見え方を体感するため、試験飛行ができないでしょうか。

- 試験飛行をするためには羽田空港の現行の運用を一定時間停止する必要がありますが、羽田空港は現在深夜・早朝時間帯を除きフル稼働しており、一定時間運用停止することは現実的でない面があります。
- 他方、多くの方々に分かりやすい形で飛行機の音や見え方をお伝えしていくことは大変重要と考えています。
- 説明会の会場でも、このような観点から最大限工夫を行った映像資料を用意していますので、是非ご試聴ください。



多くの航空機で混雑する羽田空港

質問 航空機の飛行に伴う様々な影響が心配です。

Q1 大気汚染や地球温暖化への影響は大丈夫ですか。

- 航空機のエンジンには、国際基準に基づく排出物規制が課せられており、国際基準に適合したエンジンを搭載した航空機でなければ我が国上空を飛行することはできません。また、航空会社も積極的に新しいエンジンの導入を進めています。
- 環境省によれば、大気汚染物質（SO₂、NO_x、浮遊粒子状物質など）やCO₂のうち航空機から排出されるものの割合はごくわずかであり、影響は限定的と考えられます。
- ・ 発生源ごとの汚染物質排出量の試算例（環境省の微小粒子状物質健康影響評価検討会報告書（平成20年4月）より抜粋。）

表 3.2.4 各種発生源からの排出量推計結果の例（Kannariら（2007））

発生源	SO ₂	NO _x	NMVO	NH ₃	CO	PM ₁₀	PM _{2.5}	CO ₂
	(Gg)	(Gg)	(Gg)	(Gg)	(Gg)	(Gg)	(Gg)	(Tg)
工業系燃焼	509	821	45	1	1,059	60	43	536
発電	142	181	4	3	13	9	6	331
家庭系燃焼	1	42	2	0	43	4	3	74
廃棄物焼却・野焼き	34	66	19	2	310	25	18	42
道路輸送	26	945	495	14	3,927	75	57	206
船舶	159	333	14	0	31	19	17	16
航空機	0	20	5	0	17	1	1	4
固定蒸発発生源 ^a	1,452							
農業系 NH ₃ 発生源 ^b				286				
その他 NH ₃ 発生源 ^c				110				
総計	872	2,408	2,036	414	5,400	192	147	1,209
Streetsら（2003）	801	2,198	1,920	339	6,806	-	-	1,145
REAS ^d	926	1,970	1,880	347	2,580	-	-	1,199

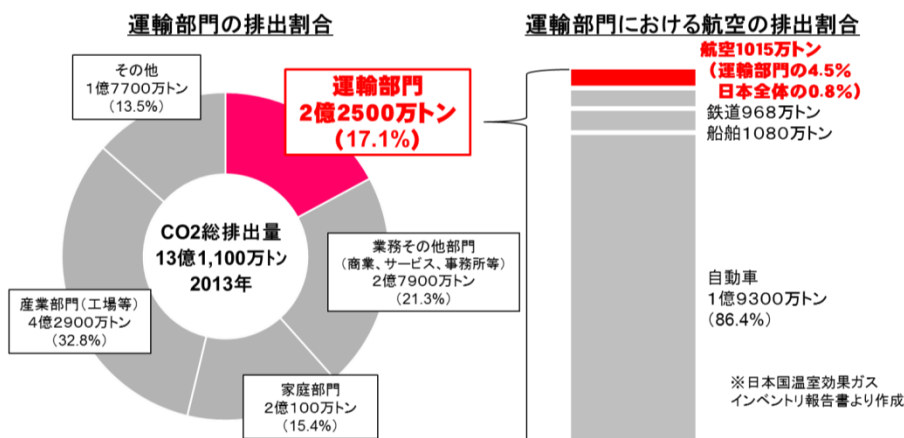
a: 精油所からガソリンスタンドにおける給油までの石油流通経路(235Gg)、産業工程(35Gg)、塗料使用(783Gg)、印刷インク使用(183Gg)、その他溶剤使用(217Gg)における排出

b: 畜産(266Gg)、施肥(19Gg)

c: ヒト、ペット(101Gg)、産業工程(8Gg)

d: Frontier Research Center for Global Change (2004).

- ・ CO₂排出について、航空からの排出は、運輸部門における割合は約4.5%。これはわが国全体の排出量の約0.8%に相当します。



Q2 健康への影響は大丈夫ですか。

- 今回の提案では、航空機が新飛行経路を飛行するのは南風時の15時から19時の4時間であり、義務教育の時間が概ね終了した後で夜間にお休みになるまでの時間帯（荒川北上出発経路の場合は、北風時の朝と夕方のピーク時間帯）に限定する予定です。
- また、建物の中では屋外に比べ音が大きく低減されます。
- 航空機騒音に関しては様々な受け止め方があると思いますが、以上のことから、健康への影響は考えにくいものと考えています。

Q3 電波障害は大丈夫ですか。

- 航空機とテレビ等が使用する電波は周波数帯が異なっています。
- アナログ放送時代には、受信障害が発生している場合がありますでしたが、現在テレビに使われている地上デジタル放送は、構造物等の反射に強い方式が採用されているため、受信アンテナ側の状態以外の理由では、具体的な影響は確認されていません。

Q4 航空機による振動は大丈夫ですか。

- 航空機の運航により発生する音は、空気（大気）を介して伝わりますが、振動は、主として地盤や構造物・建築物を介して伝わることから、航空機の運航による振動の影響は限定的と考えられます。
- 振動に関しては、環境基本法等において道路、新幹線、工場・事業場、建設作業といった発生源の種別により評価手法が定められていますが、航空機による振動については定めがありません。

Q5 不動産価値が下落するのではないですか。

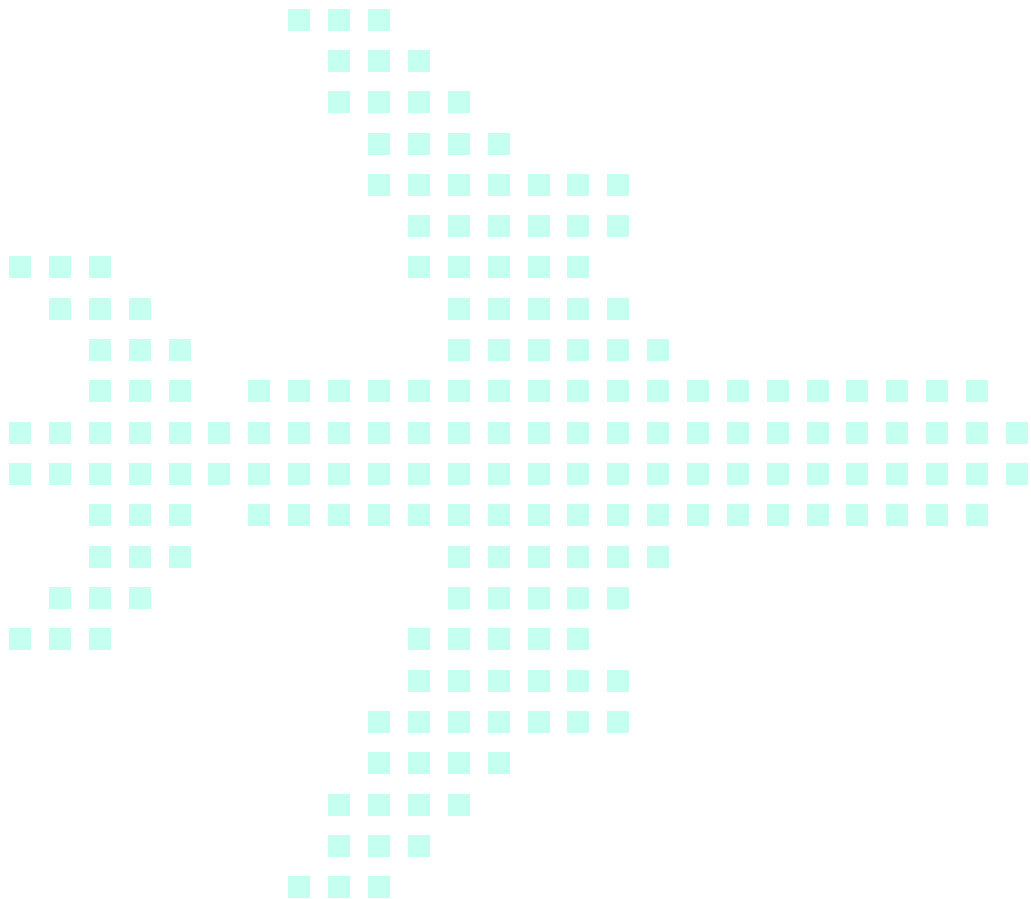
- 不動産価値については、周辺の騒音等の環境面や立地、周辺施設等の地域要因だけでなく、人口の増減等の社会的要因、財政や金融等の経済的要因、土地利用計画等の行政的要因、あるいはそもそもの需要と供給のバランスなど経済情勢を含めた様々な要素が絡み合い決定されます。
- 従って、航空機の飛行と不動産価値の変動との間に直接的な因果関係を見出すことは難しいと考えています。

Q6 緊急時のヘリコプターの活動に支障はないのですか。

- ヘリコプターによる突発的な消防活動や医療活動などの緊急時の活動については、これまでも、状況に応じて対応してきたところであり、引き続きこうした活動が円滑に行われるよう、適切に運用していきます。

5

環境に対する影響を 軽減する方策



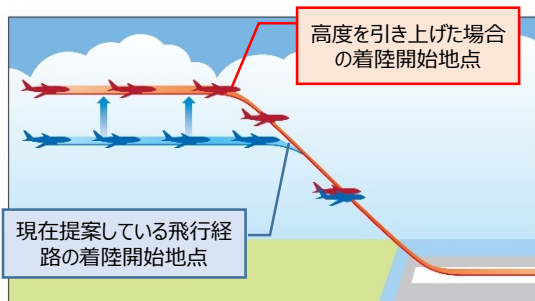
質問 騒音をできるだけ小さくするため、どのような方策を考えていますか。

- 騒音をできるだけ小さくするための方策を模索していきます。そして、安心して暮らせる環境の確保と社会の発展の両立に努めます。
- 今回の提案では、新たな飛行経路について、需要が集中する時間帯に限定して運用することで、環境にできるだけ配慮することを想定しています。
- 今後、住民の皆様のご意見、ご質問、ご懸念等を聞かせていただいた上で、環境対策のあり方、新飛行経路の運用方法等、より環境影響に配慮した方策を策定していきます。
- たとえば、更なる低騒音機の導入を促していきます。そのため、音の静かな航空機が空港を使用する際の料金を安くするなどの方策を検討していきます。
- できる限り騒音を小さくした上で、なお関係法令に基づき対策が必要な地域においては、防音工事などの対策を確実に講じていきます。

Q1 南風時の新到着経路において、着陸を開始する高度を見直すことで、航空機の音の影響を小さくすることが考えられますか。

- 南風時の新到着経路において、例えば、A滑走路・C滑走路への新到着経路の着陸を開始する高度を引き上げることで、航空機の音の影響を小さくすることが考えられます。
- ただし、高度を引き上げた場合には、音の影響は軽減されますが、飛行経路を変更する必要性が生じる可能性もあります。このため、関係機関との調整や他の飛行場等に離着陸する航空機との安全確保などの技術的な検証が必要になります。

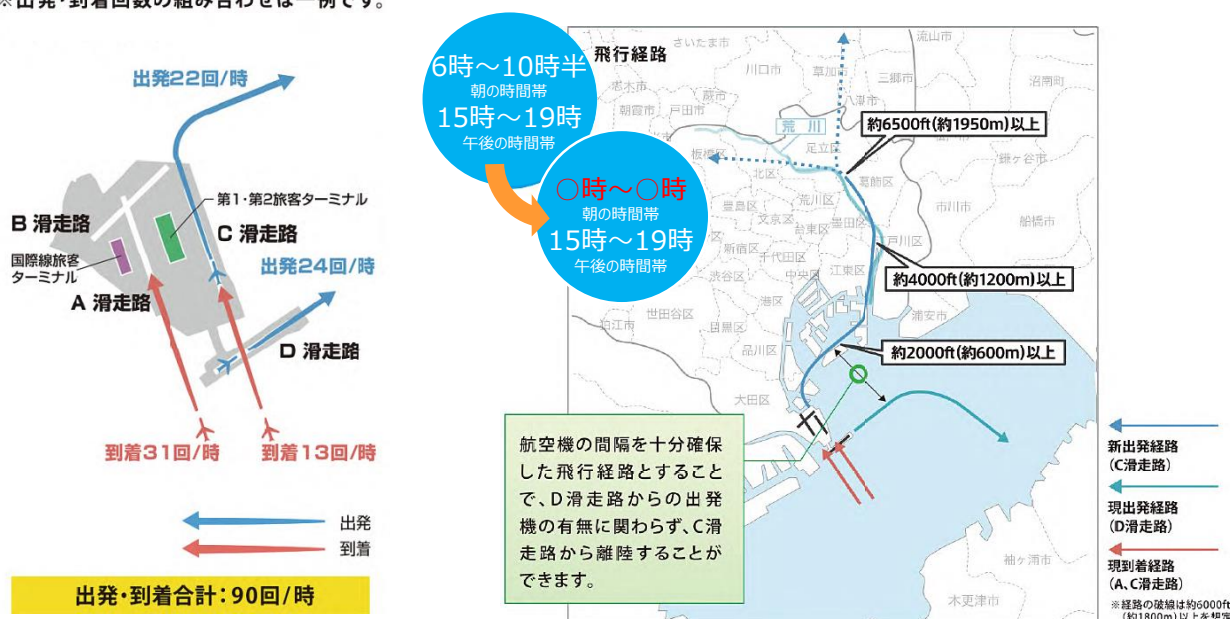
<高度引き上げのイメージ>



Q2 北風時の新出発経路を使用する時間帯を変更することで、航空機の音の影響を小さくすることが考えられますか。

- 北風時の新出発経路は、出発需要がピークになる朝の時間帯と国際線の需要が集中する午後の時間帯に限り運用することを提案していましたが、早朝6時台から低高度で陸域上空を飛行するのは騒音影響が大きいとのことご意見が寄せられました。
- 例えば、北風時の朝の新出発経路の運用時刻（6時～10時半）を後ろ倒しにすることが方策として考えられます。
- 便数を確保するためには、新出発経路の運用終了時刻も見直す必要があります。また、国際線の需要に対応が可能かどうか十分な検証が必要です。

※ 出発・到着回数の組み合わせは一例です。



Q3 特に頻度の高い、南風時C滑走路の到着機とB滑走路の出発機の便数を他の滑走路に振り分けることで、航空機の音の影響のバランスを是正することが考えられますか。

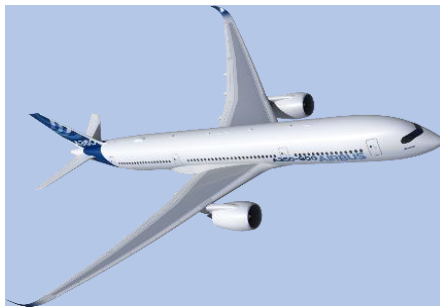
- 特に通過頻度の高い「南風時C滑走路到着」と「南風時B滑走路出発」については、便数を他の滑走路に振り分ける（例えば、C滑走路到着機をA滑走路到着に振り分ける、B滑走路出発機とA滑走路出発機をC滑走路出発に振り分ける）等により、航空機の音の影響のバランスを是正することが考えられます。
- 最も頻度の高いC滑走路到着機を減らすことができ、瞬間の騒音値が最も大きいB滑走路出発機を減らすことができますが、見直しにあたっては運用上の十分な検証が必要です。

Q4 音の発生源である航空機を低騒音化することで、音の影響を低減することが考えられますか。

○ 航空会社に対して、より静かな航空機の使用を促すことが考えられます。

例えば、

- ・ より静かな航空機の使用を促すための空港使用料体系の見直し
- ・ 特に高度が低くなる経路における騒音影響の大きな航空機の運航の制限



エアバスA350型



ボーイング787型

より静かな航空機のイメージ

※ 我が国も参画する国際民間航空機関において、より厳しい騒音基準を導入することで、新たに設計・製造される航空機に対しては更なる静粛性が要求されています。

※ 音の影響を軽減することができますが、国際線への影響、技術的な対応可能性等の課題を総合的に勘案し、関係者とも調整し慎重に検討を行う必要があります。

質問 音の状況に応じて防音工事はしてもらえるのですか。

- 空港周辺の一定の区域内において、住宅等の防音工事について国が助成する制度があります。
- できるだけ音の影響を小さくした上で、必要に応じ助成を行う考えです。

- 公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律に基づき、空港周辺の一定の区域内において、教育施設等や住宅の防音工事について国が助成する制度があります。
- 羽田空港でも、過去の飛行経路や影響範囲に応じこのような措置が講じられています。また、市街地に隣接する国内他空港（伊丹空港、福岡空港等）においても同様です。
- 運用方法の工夫等により、できるだけ音の影響を小さくした上で、前述の防音工事に対する助成を行うことが考えられます。

※ 羽田空港周辺では、以前に比べるとその影響の程度や範囲は大幅に改善、縮小しており、今回の見直しを行う場合でも同様に、更にできるだけ地域への影響を小さくするための工夫を継続していく考えです。

<音の影響の範囲（想定）>



- 教育施設等の防音工事については、航空機の騒音の強度及び頻度が一定の限度を超える場合に国が助成を行います。
- 住宅の防音工事については、Lden 62dB以上の騒音影響を目安に対象区域を指定し、国が助成を行います。

※ 指定された区域内に、指定の際に現存する住宅のみが防音工事助成の対象となります。

※ Ldenとは、昼間、夕方、夜間の時間帯別に重みを付けて求めた、変動する騒音の騒音レベルをエネルギー的な平均値として表した量をいいます。

6

安全性に関する方策



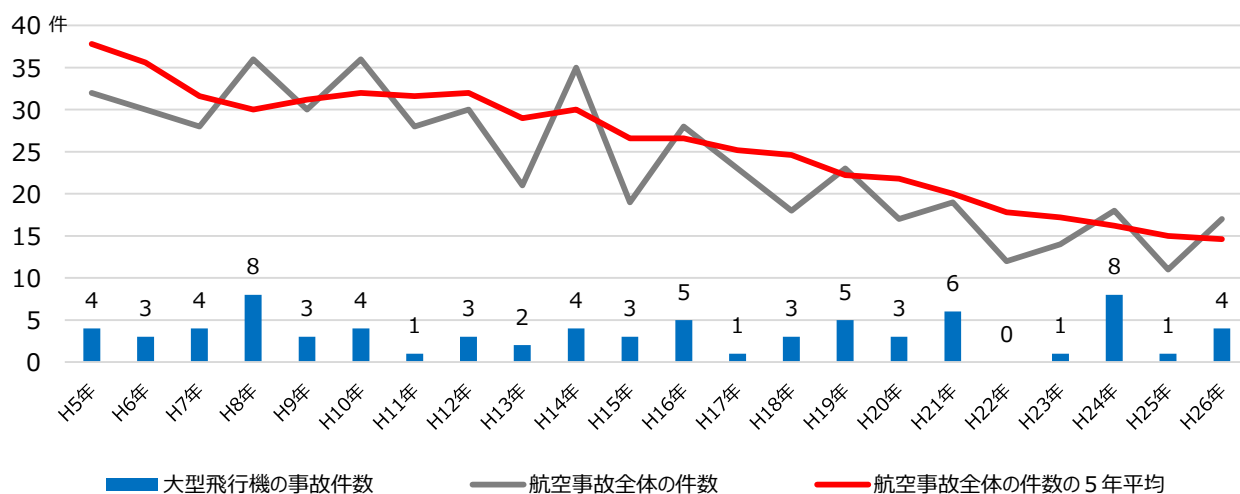
質問 航空事故について教えてください。

- 安全の確保は、すべてに優先します。高い緊張感を持って日々の安全対策にあたっています。
- JAL機の御巣鷹山事故（昭和60年）以降、我が国の定期航空会社による乗客死亡事故は発生していません。

Q1 これまで、我が国の航空会社の事故はどのくらいあるのですか。

- 航空機の運航の安全性を確保するため、何重もの安全対策を積み重ね、事故の発生を防ぐあらゆる取組みを行っています。その一環として、航空機の墜落に限らず、様々な航空事故や事故に結びつく恐れがあった事案については、専門家が原因を徹底的に調査し、二度と同様の事故を起こさないよう更なる安全性の向上を図ってきました。加えて、そのような事態の予兆があった場合も航空会社に報告を求め、安全対策に活用しています。
- 航空事故の発生件数は各年毎に変動はあるものの、全体では減少傾向にあります。また、昭和60年以降、我が国の航空会社による乗客死亡事故は発生していません。
- なお、大型機の事故は年に一桁程度発生していますが、その多くは、乱気流に伴う客室乗務員等搭乗者の負傷などの事例です。
- 羽田空港周辺に関しては、昭和57年に着陸機が滑走路手前の海上に墜落した事故以降、墜落事故は発生していません。

我が国における航空事故発生件数

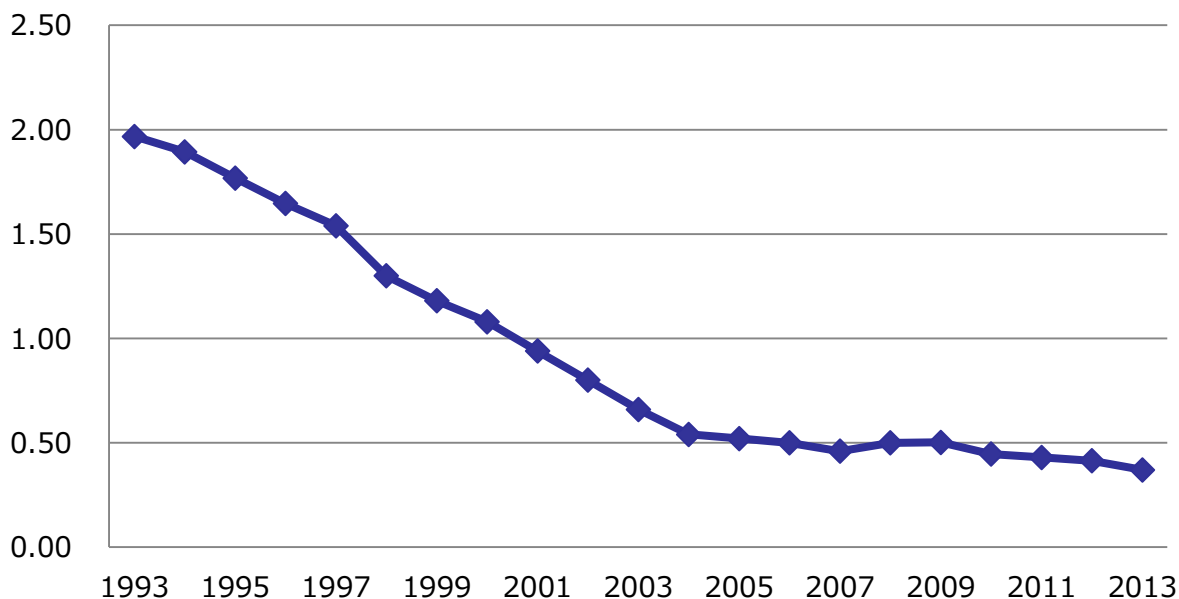


※ 航空事故には、航空機内の人々が一定以上の骨折や火傷を負ったケースや、着陸時の強い衝撃により航空機に一定以上の修理が必要となったケースも含まれます。

Q2 世界で航空会社の事故はどのくらいあるのですか。

- 世界の定期航空運送事業機の出発回数が増大する中、全世界における航空死亡事故は、長期的に見て減少傾向にあります。

世界の航空死亡事故発生率



※ 定期航空運送事業機（最大離陸重量2,250kg以上の航空機）の出発100万回あたりの航空死亡事故発生回数

出典： ICAO, Annual Report of the Council（2008年まで）
 ICAO, The Accident/Incident Data Reporting (ADREP) system（2009年から）

質問 人口密集地区上空を飛行することについて安全性に問題はないのでしょうか。

- 安全の確保は、すべてに優先します。高い緊張感を持って日々の安全対策にあたっています。
- 過去の事故からの教訓や技術開発を基に、安全対策を少しずつ積み重ねていくことによって、より高水準の安全が実現されるよう、関係者一同、日々努力しています。

Q1 どのように安全対策はとられているのですか。

- 過去の事故からの教訓や新たな技術を踏まえ、安全対策を何重にも積み重ねてきました。
- さらに、各要素が相互に連携することでより高水準の安全が実現されるよう、関係者一同日々努力しています。

航空機

機体のチェック

就航前に国際的な安全基準に基づく安全確認、就航後も、出発の前後はじめ重層的に点検・整備をしています。



パイロット

パイロットの養成

パイロットは、長期間の教育・訓練を経た上で国家試験に合格する必要があります。パイロットとなった後も、厳しい訓練と検査をクリアしなければ働き続けることができません。

地上部

地上からの支援

管制官や気象台・航空会社から、常に指示や情報提供を行っています。

○ わずかな危険の兆候も見逃さず、確実に危険の芽を摘んでいきます。

それぞれの要素の安全確保

①機体のチェック



航空機は、エンジン・翼・胴体等の強度・構造・性能の細部にわたるまで国際的な安全基準が設定されており、実際に使い始める前に1機ずつ国が安全確認しています。
就航後も、資格を有する整備士を有し適切な施設や品質管理制度が整っていることを国が認定した事業場において、細部にいたるまで国の基準に基づき、出発の前後をはじめ重層的に点検・整備をしています。
国は航空会社に対し、抜き打ちを含めた立入検査等により、厳正な監督を行っています。

②パイロットの養成



航空会社のパイロットとなるためには、最低でも2年以上の厳しい教育・訓練を経た上で、国家試験に合格する必要があります。加えて、機種ごとに操縦資格の取得が必要です。さらに機長となるには、7～8年の乗務経験を経た上で国の認定を受ける必要があります。
パイロットとなった後も、定期的な訓練で技能を維持し審査に合格しなければ操縦できません。また、定期的に全身にわたり詳細な身体検査を受けています。

③地上からの安全の支援



航空管制官が絶えず航空機を監視し、指示することで、安全な飛行を支えます。
航空機・空港の位置に関する情報を、航空機と地上側の間で電波によってやりとりすることで、雲等により視界が悪くても、安全な着陸を実現します。
航行中の航空機は、航空気象台から航空会社を通じ風向や風速等の情報提供を受けています。

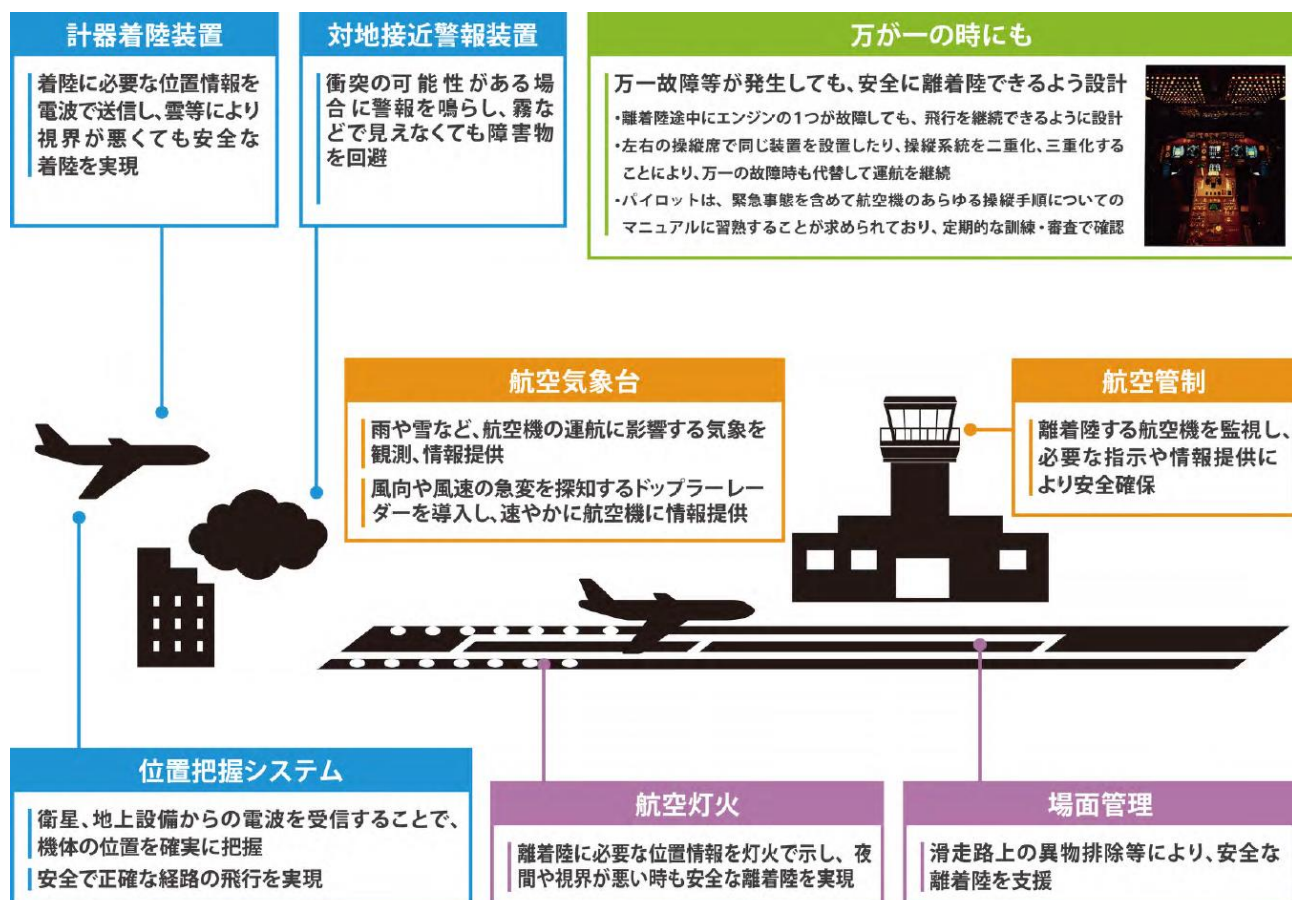
- ・ 事故の陰には、その何十倍もの危険な事態が、その陰にはさらにその何十倍もの安全が懸念される状況があると言われてしています。
- ・ 事故をなくすため、安全に関する情報を幅広く収集し、安全が懸念される段階で危険の芽を摘み取り、事前に防止しています。このほか、さらに関係者の自発的な情報提供を受け付ける仕組みも始めました。

危険回避フロー



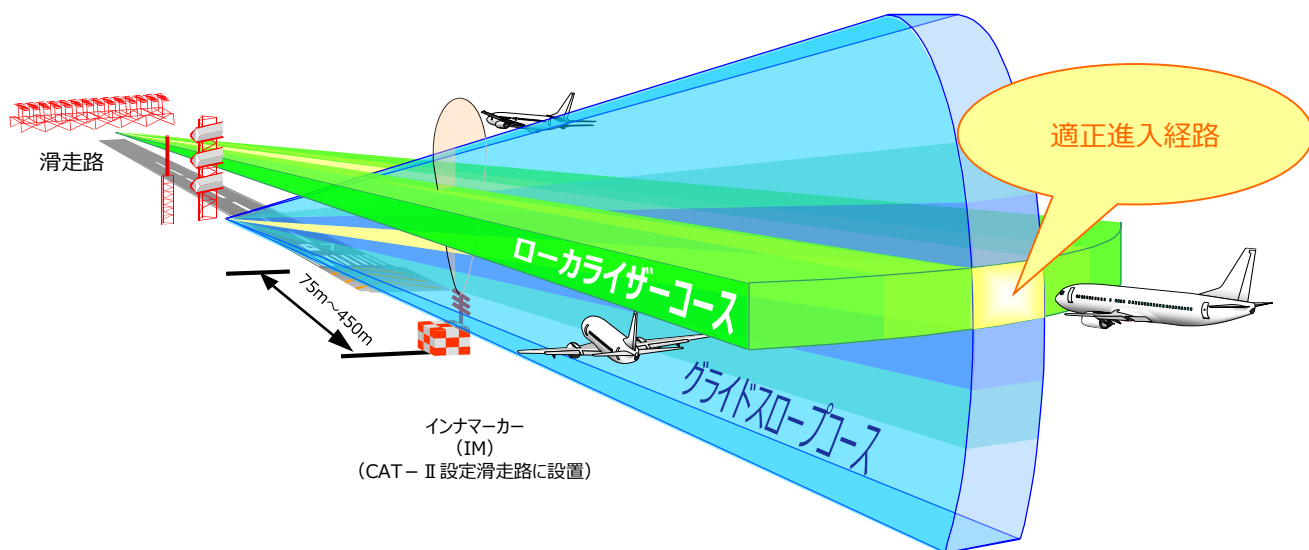
Q2 離着陸時の安全は大丈夫でしょうか。

- 航空機は、衝突の可能性がある場合に警報を鳴らし、霧などで見えなくても障害物を回避することができます。また、衛星、地上設備からの電波を受信することで、機体の位置を確実に把握し、安全で正確な経路の飛行を実現しています。
- パイロットは、緊急事態を含めて航空機のあらゆる操縦手順についてのマニュアルに慣熟することが求められており、定期的な訓練、審査でそれを確認しています。
- 地上では、航空管制官が航空機を監視し、必要な指示や情報提供を行い安全確保に努めています。また、電波を用いた誘導や滑走路等に設置された航空灯火によって、安全な離着陸を実現しています。



Q3 夜間や悪天候の低視程条件下において、航空機が安全に着陸するためにどのような対策がとられているのですか。

- 地上では、計器着陸装置（ILS）と呼ばれる空港の施設により、天候が悪くパイロットが滑走路を目で確認できない場合でも、直進する電波を利用して、最適なコース（位置・高度）を飛行しているかどうかを確認しながら着陸することができます。なお、滑走路ごとに定められた安全な着陸のための最低の気象条件を下回る場合等、パイロットが安全に着陸できないと判断した場合は、安全を優先して着陸を中止します。
- 羽田空港などのILSが設置されている空港へ着陸するエアライン機は、航空法で装備が義務づけられているILS受信装置によって、ILSの電波を利用することができます。
- パイロットは、定期的に行われる乱気流、ウインドシア（上下方向を含む風向または風速の局地的変化）等の悪天候を再現した模擬飛行装置（フライトシミュレーター）による訓練等を通じて、着陸やり直しを含む操縦手順等を身につけています。



Q4 飛行中に異常が発生しても、安全は保たれるのですか。

- 航空分野では、仮に1つの系統に不具合が生じて、別の系統がバックアップをすることで安全な飛行を維持できるようにという設計思想に基づき、各種のシステムを構築しています。パイロットにおいても、緊急時に適切に対応できるよう、訓練を実施しています。

例えば、以下のようなことがあります。

◎片方のエンジンが止まった場合は大丈夫ですか。

航空機のエンジンは、厳しい安全上の基準を満たしており、エンジンを含め機体の整備は能力を認定された整備工場で行われています。

このため、その信頼性は極めて高く維持されていますが、万一エンジンが1基停止したとしても、残りのエンジンにより安全な飛行を継続し、航空機を着陸させることができます。

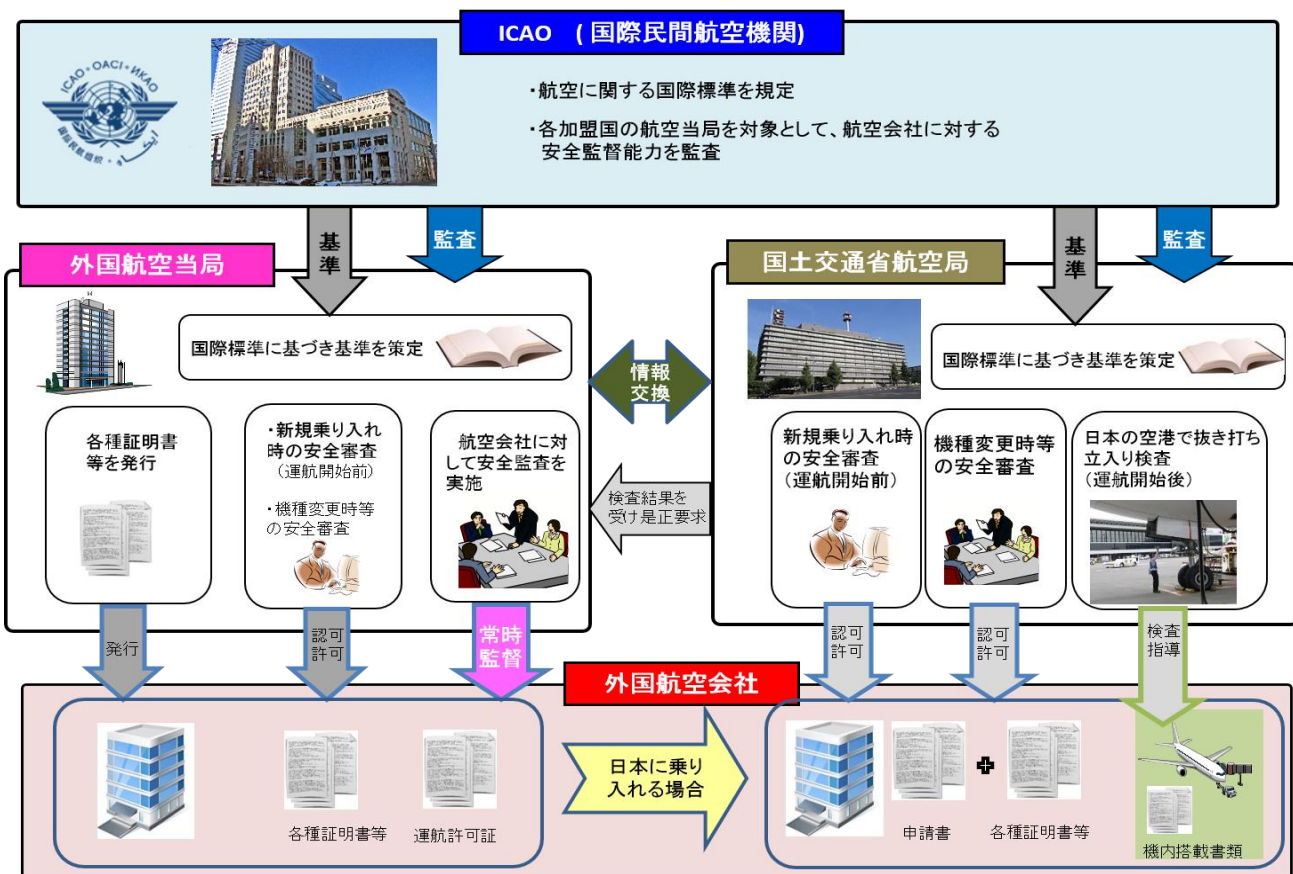
また、航空機を操縦するパイロットに対しても、航空機の操縦手順書に記載されたエンジン停止時の対応方法について、様々な状況を模擬飛行装置で再現し、操縦訓練を繰り返し実施することで、安全な飛行を継続する技量の確保を徹底させています。

◎パイロットの1人が急病になった場合は大丈夫ですか。

旅客機のコックピットでは、2名のパイロットが乗務し、1名が操縦できない状態になったとしても、残りの1名だけで安全に着陸できるよう、あらかじめ手順を定め、想定した訓練も積んでいます。その手順について「緊急の場合においてとるべき措置等」の1つとして、航空会社のマニュアルに規定することになっており、パイロットと客室乗務員による合同訓練を通じて、定期的に確認されています。

Q5 外国の航空会社の安全性は大丈夫なのですか。

- 外国の航空会社に対しては所属国の航空当局が、国際基準に基づき、安全監督を実施しています。国際基準を満たしていなければ、我が国の空港に乗り入れることはできません。
- 各国の航空当局は、国際基準に基づく適切な安全監督を実施していることについて、国連の機関である国際民間航空機関（ICAO）による定期的な安全監査を受け、必要に応じ、ICAOが改善を指導することとなっています。
- 加えて、我が国に乗り入れている外国航空機に対し、検査官が立入り検査を行い、必要に応じ当該航空会社を指導するとともに、所属国の航空当局に対し是正を求めるなどの対応を行っています。



Q6 バードストライクへの対策はどうなっていますか。

- 航空機と鳥が衝突するいわゆるバードストライクを防止するため、空港内を24時間パトロールし、空砲による威嚇射撃等を行うことで空港及びその周辺から鳥を追い払うほか、草地や水場の管理など、生態系等を考慮した環境対策を実施しています。
- また、航空機の安全基準は、構造部材への一定の重量の鳥の衝突やエンジンによる鳥の吸込みも考慮して策定されており、万一、実際にバードストライクが発生した場合にも直ちに安全上問題が生じることのないよう、航空機の安全性を確保しています。



Q7 増便により、管制官の負担が増すのではないですか。

- 管制官は、悪天候時の対処や緊急事態への対応などを含め、実施する業務や空港等ごとに定められている資格を取得するために厳しい訓練を受けています。
- また、定期的に訓練・審査を受けることで、専門的かつ高度な技量を維持しています。
- このような管制官を適切に配置することにより、将来の航空交通量の増大にも適切に対応していく考えです。



Q8 パイロット不足による影響はないのですか。

- パイロットの資格は、国際的なルールとの調和を図りつつ、これまでと同等以上の安全性が担保されるようにしています。
- パイロット不足に対応するため、その養成・確保に必要な取組みを進めていますが、安全性の確保を最優先としています。
 - LCC（ローコストキャリア）の急速な事業展開等を背景とした短期的なパイロット不足、また、今後の航空需要の増大等を背景とした中長期的なパイロット不足が懸念されています。
 - こうした課題に対応し、例えば、若手パイロットの供給拡充を図るため、以下のような取組みを行っています。
 - ・ 航空会社での自社養成を促進する新たな制度の導入
 - ・ 奨学金制度の充実等により、私立大学等の民間養成機関の供給能力拡充



質問 万一事故があった場合の補償はどのようになっているのでしょうか。

- 国土交通省は、被害を受けた方やご家族が再び平穏な生活ができるよう中長期にわたる支援を実施いたします。
- 事故の原因にもよりますが、金銭的な補償については、航空運送事業者により補償があります。

○航空事故については、その被害の大きさから防止することがなによりも重要でありませんが、万一事故が発生した場合には、国土交通省としては、被害を受けた方やそのご家族に対し、事故情報を提供するとともに、事故を起こした航空運送事業者と一体となって、被害を受けた方への各種相談への対応を行い、再び平穏な生活ができるよう中長期にわたる支援を実施してまいります。

○また、金銭的な補償内容については、事故原因等を踏まえ原則的には航空運送事業者が補償を行うこととなります。

【国土交通省の取組み】

➤ 事故発生直後

- ・ 事故被害者の搬送先病院等において支援活動、相談窓口の周知活動を実施。
- ・ 常設の窓口のほか、必要に応じ事故現場近くなどに相談窓口を設けて被害者等からの相談要望に対応。

➤ 事故発生後、中長期的対応

- ・ 窓口における被害者等からの生活支援、経済支援、心身のケア等に関する相談への対応及びコーディネート。
- ・ 事故調査、安全対策に係る被害者等への説明会の開催。

質問 テロやハイジャックへの対策は大丈夫でしょうか。

- 羽田空港をはじめ世界各国の空港では、機内への凶器類・爆発物の持込を防ぐ検査を徹底して実施しており、十分な対策をしています。

○羽田空港をはじめ世界各国の空港では、保安対策がICAOの国際基準に基づき実施されています。国内の空港について、国は国際基準に従った航空保安対策の実施を確保するための取組みを進めています。

(取組例)

- ✓ 強化コックピットドアの装備義務化
- ✓ 空港場周フェンスの強化、センサーの設置等
- ✓ 国際線における液体物の客室への持込制限の導入
- ✓ 空港関係者及び搬入物の検査
- ✓ ボディスキャナーの導入に向けた運用評価試験の実施
- ✓ 国際線搭乗ゲートでのパスポートチェックの実施



<空港場周フェンスの監視>



<駐機中の航空機の監視>



<空港関係者及び搬入物の検査>



<ボディスキャナーによる検査>

○今後もより高度な検査機器を導入する等、テロ・ハイジャック対策の強化に万全を期すよう努めます。

質問 航空機からの落下物について教えてください。

- 部品や、機内又は空中由来の氷の塊が航空機から落下する恐れが指摘されています。また、これらの落下物は、点検や整備が不十分である場合に発生すると言われていています。
- 国土交通省では、落下物が発生しないよう、航空会社への点検・整備徹底の指導、航空機メーカーへの設計・製造・整備マニュアルへの反映の働きかけなどの対策に全力で取り組んでいます。

Q1 航空機からの落下物にはどのようなものがあるのですか。

■ 落下物の防止策

部 品：航空機の振動等による脱落といった事態を防ぐため、出発前に点検するほか、定期整備時に徹底してチェックします。

氷 塊：トイレの汚水等は、機内のタンクに貯めておき着陸後に取り下ろされますが、飲料水や手洗後の水など一部の水は、上空では安全に機外に排出され、空中に飛び散るようになっています。このため、排出管には凍結防止用ヒーターが設置されています。また、整備時に給水パイプに水が残ったりしないよう、水切りを徹底しています。

このほか、空中の水分が飛行中に翼やエンジンに付着し、氷となる可能性もあることから、翼やエンジンにもヒーターがついています。



加熱機構付き
機外排出管

※ 過去10年間の発生件数は、成田空港周辺では18件（部品13件、氷塊5件）、羽田空港周辺では0件となっています。

Q2 落下物対策はどのようになっているのですか。

- 航空会社に対し、点検・整備を徹底するよう指導しています。
- 国、航空会社、空港会社等の関係者による会議を定期的を開催し、落下物の発生状況等について情報共有し、対策を検討してまいります。
- これまでも改善策を具体化し、着氷防止につなげています。

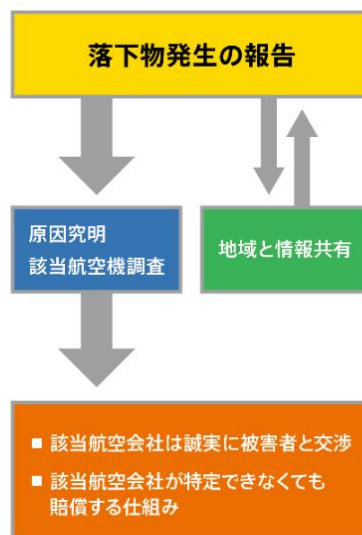
Q3 万一落下物が起こった場合の補償はどうなっているのですか。

- 航空機からの落下物と疑われる事案が発生した場合、原因究明のために国が調査を行います。
- 航空機からの落下物であると判断され、原因者が特定された場合、当該原因者が被害を補償することとなります。航空機からの落下物であると判断されたものの、原因者が特定されない場合、落下物被害救済制度を活用し、該当する可能性がある航空会社が保険金により被害額を分担することとなります。

落下物ゼロのための、たゆまぬ対策



万一の場合には、誠実に対応します



7

その他



質問 国際線増便後の空港の姿はどのようなものになりますか。

- ターミナル機能の拡充や、関連施設や体制の充実を行うとともに、空港アクセスの充実や周辺のまちづくりを推進していきます。

関連施設・体制の充実

- 平成22年10月の国際線の再就航に合わせ、国際線旅客ターミナルを供用しました。
- 平成26年3月には、昼間時間帯における発着回数の増加（年間3万回→6万回）に対応するため、国際線旅客ターミナルを増改築し、駐機場（搭乗橋付き）、チェックインカウンター、保安検査場等を増設するとともに、立体駐車場の増築を行いました。
- さらに平成26年9月には、ターミナル併設のホテルの開業により、旅客の利便性向上を図るとともに、国際的な企業活動の重要なツールとなっているビジネスジェットの利用環境の改善を図るため、ビジネスジェット専用ゲートを開業しました。
- 国際線の更なる充実が図られた場合にも、ターミナルの混雑や空港機能の低下が起こることのないよう、ターミナル機能の拡充や関連施設・体制の充実に取り組みます。

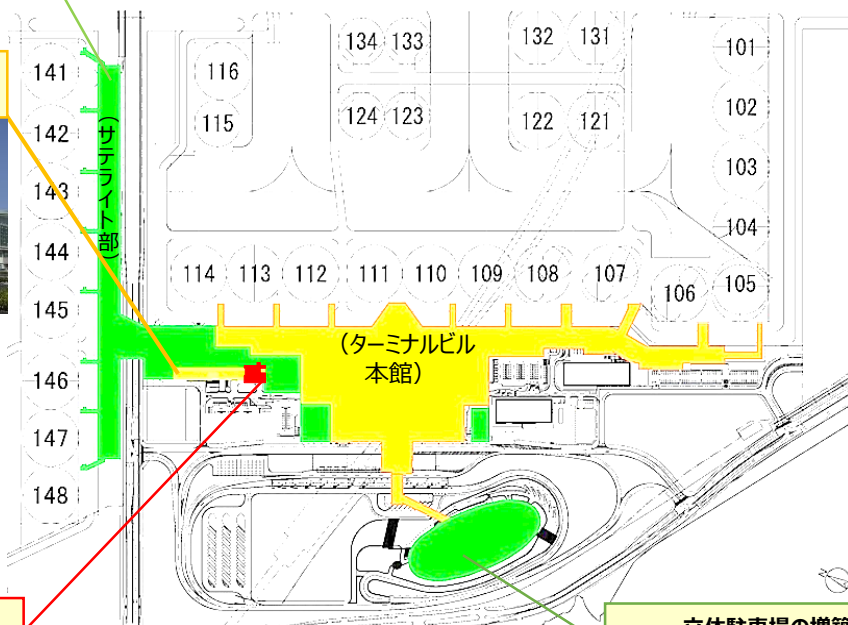
国際線旅客ターミナルビル等の拡張の概要

施設	拡張前	拡張後
駐機場（搭乗橋付き）	10スポット	18スポット
チェックインカウンター	4箇所	6箇所
保安検査場	1箇所	2箇所
手荷物受取ターンテーブル	5基	7基
立体駐車場	7層（2,300台）	9層（3,000台）

サテライト部の増築
(平成26年3月30日供用開始)



ビジネスジェット専用ゲート
(平成26年9月30日開業)



立体駐車場の増築
(平成26年3月30日供用開始)

空港アクセスの充実

- 鉄道については、東京モノレールや京急空港線の延伸、国際線ターミナル新駅の開業等の改善が図られ、現在は新しい路線の構想もあり、検討が進められています。
- バスについては、平成26年に羽田空港と都心部の駅等を結ぶ深夜早朝アクセスバスの運行が開始され、平成27年3月の中央環状品川線の開通により、所要時間の短縮※が図られました。
- 今後も空港アクセスの充実に向けて、鉄道やバス等の利便性向上に取り組みます。

※ 新宿・池袋方面～羽田空港間で、所要時間を最大15分短縮したダイヤで運行

鉄道アクセスの強化



昭和39年	【モノレール】浜松町駅～羽田駅（現天空橋駅）間開業
平成5年	【モノレール】羽田空港駅（現羽田空港第1ビル駅）延伸開業 【京急】羽田駅（現天空橋駅）延伸開業
平成10年	【京急】羽田空港駅（現羽田空港国内線ターミナル駅）延伸開業
平成22年	【モノレール・京急】国際線旅客ターミナルビル新駅開業

※ この他、JR東日本における羽田空港アクセス線、京急線と東急線を短絡する新空港線（蒲蒲線）等の構想がある。

羽田空港深夜早朝アクセスバスの運行（平成26年10月開始）



【深夜便（各方面ゆき）出発時刻】

運行ルート	時刻
羽田空港 ⇒ 浅草・秋葉原・東京駅・銀座	1:05, 2:00
羽田空港 ⇒ 池袋・新宿	1:00, 1:40, 2:20
羽田空港 ⇒ 二子玉川・渋谷・六本木	0:50, 2:20
羽田空港 ⇒ 品川・お台場	1:40, 2:15
羽田空港 ⇒ みなとみらい・桜木町・横浜駅	1:40, 2:20
羽田空港 ⇒ 川崎・蒲田・大鳥居	1:40, 2:15
羽田空港 ⇒ 一之江・葛西・東陽町・豊洲・有明	1:55

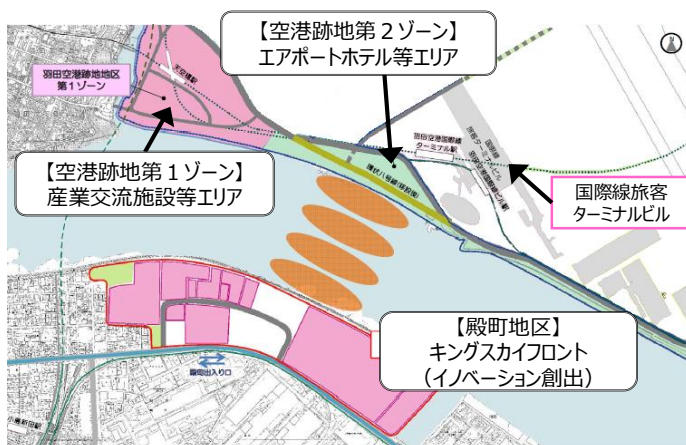
【早朝便（羽田空港ゆき）到着時刻】

運行ルート	時刻
浅草・秋葉原・東京駅・銀座 ⇒ 羽田空港	4:30
池袋・新宿 ⇒ 羽田空港	4:30
二子玉川・渋谷・六本木 ⇒ 羽田空港	4:30
品川・お台場 ⇒ 羽田空港	4:35
みなとみらい・桜木町・横浜駅 ⇒ 羽田空港	4:32
川崎・蒲田・大鳥居 ⇒ 羽田空港	3:38
一之江・葛西・東陽町・豊洲・有明 ⇒ 羽田空港	4:30

周辺まちづくりの推進

- 羽田空港跡地において、産業交流施設等（第1ゾーン）やエアポートホテル等（第2ゾーン）の導入を進めています。
- また、羽田空港周辺地域及び京浜臨海部の連携を強化し、成長戦略拠点の形成を目指していきます。

羽田空港跡地地区と殿町地区との連携



質問 わかりやすい情報提供について、どのような対策が考えられますか。

- 国際線増便の検討状況については、特設サイト「羽田空港のこれから」の更新、ニュースレターの発行等を通じて、今後も引き続き、情報発信に努めていきます。
- また、羽田空港の運用情報や航空機騒音モニタリングの結果を分かりやすく情報提供するための方策を検討いたします。
- 住民の皆様からのお問い合わせにワンストップで対応できるような窓口のあり方についても検討いたします。

- 現在、羽田空港に離着陸する航空機の飛行コース等をホームページで公開しています。（成田空港にも同様の仕組みがあります。）
- 羽田空港の現在の飛行コースに関連して、16箇所の騒音測定局を国が設置し、常時騒音状況を測定しています。モニタリングの結果は、東京航空局のホームページで公開されています。

羽田空港飛行コースホームページ
URL: <https://www.franomo.milt.go.jp>

航跡図（北風時好天以外）のイメージ



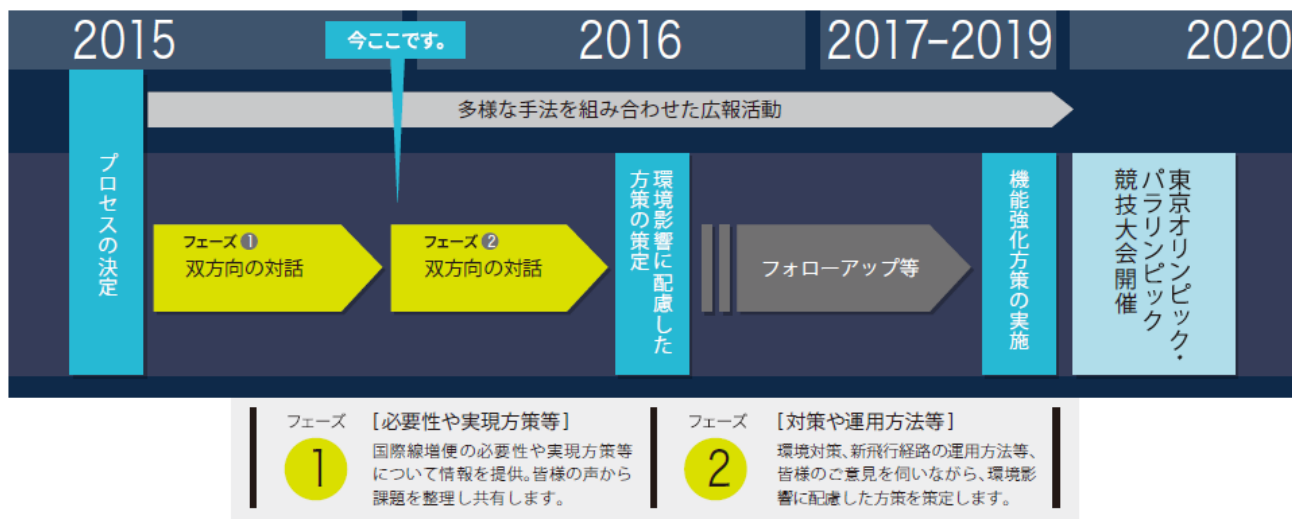
騒音測定局の例



質問 今後の検討や対話は、どのように進むのでしょうか。

- フェーズ2においても住民の方々の多様なご意見を伺った上で、平成28年夏までに環境影響に配慮した方策を策定していきます。

○「双方向の対話」を2段階に分けて実施します。



- フェーズ2では、フェーズ1で明らかになった課題について、更なる情報や考えられる環境・安全上の方策、運用の工夫等の方向性について情報提供させていただき、議論を深めていきます。
- 国土交通省では、このような取組みを通じ、皆様のご意見を伺った上で、平成28年夏までに環境影響に配慮した方策を策定していくこととしています。
- 「羽田空港のこれから」について、提案された方策へのご意見やその他のアイデア、検討する上で重視すべきこと等について皆様のご意見をお聞かせください。

「羽田空港のこれから」について、 皆様のご意見をお聞かせください。

- ✓ 国土交通省は、日本の豊かな暮らしを将来の世代に引き継ぐため、羽田空港の国際線を増便し、世界との結びつきをさらに深めていく（国際競争力を高める、海外との交流を深める）必要があると考えています。
- ✓ その具体化に向けた検討を進めるにあたっては、まず関係自治体の協力も得つつ、その必要性や実現方策について、できる限り多くの方々に知っていただけるよう努めていきたいと考えています。
- ✓ また、住民の方々の多様なご意見をきめ細やかに伺った上で、平成28年夏までに環境影響に配慮した方策を策定していきます。
- ✓ 「羽田空港のこれから」について、皆様の声を是非お聞かせください。



羽田空港のこれから

検索



- ◆ 会場内では、担当者がご意見をお伺いします。
- ◆ コメントカードでご意見をお寄せいただくこともできます。
(コメントカードを後日郵送いただくことも出来ます。)

また、国土交通省ホームページに皆様のご意見をお伺いするための窓口を設置しています。

URL <http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/index.html>.



